

## 平成 30 年度「ラウンドテーブル」

### 議 事 次 第

平成 31 年 2 月 5 日（火）  
10：00～12：00  
内閣府公益認定等委員会委員会室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

議題：公益活動の増進と寄附文化の醸成

（1）各法人からのプレゼンテーション

（2）意見交換

4. 閉会

## <参加者>

### 1. 公益法人関係者

たなだ 棚田	ゆういち 雄一	公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 代表理事・専務理事
ひらい 平井	としくに 俊邦	公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 理事長
よしかわ 吉川	あきら 明	公益財団法人日本盲導犬協会 専務理事

(敬称略・五十音順)

### 2. 公益認定等委員会委員

やました 山下	とおる 徹	委員長
こもり 小森	みきお 幹夫	委員長代理
こばやし 小林	けいこ 敬子	委員
にしむら 西村	まりこ 万里子	委員
ほり 堀	ゆたか 裕	委員
めぐみ 恵	さゆり 小百合	委員

### 3. 公益認定等委員会事務局

やまうち 山内	たつや 達矢	事務局長
あけど 明渡	すすむ 将	事務局次長

## <配付資料>

資料 1 - 1	(公財) プラン・インターナショナル・ジャパン説明資料
1 - 2	(公財) 日本フィルハーモニー交響楽団説明資料
1 - 3	(公財) 日本盲導犬協会説明資料
1 - 4	(公財) パブリックリソース財団説明資料
資料 2	平成 30 年度「ラウンドテーブル」について
参考資料	「法人との対話」について

平成 31 年 2 月 5 日 内閣府公益認定等委員会  
平成 30 年度ラウンドテーブル

公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン  
代表理事・専務理事 棚田 雄一

1. プラン・インターナショナルとは
  - (ア) 70 ヶ国で活動を展開する国連に公認・登録された NGO
  - (イ) 国際本部はイギリス
  - (ウ) プラン・インターナショナル・ジャパンの設立は 1983 年
  - (エ) 年間予算は約 8 億 3,000 万ユーロ（全世界）、約 31 億円（日本）
  
2. プラン・インターナショナルの寄付募集
  - (ア) 継続支援がメイン
  - (イ) 寄付集めの方法各種
  - (ウ) 効果的な寄付募集に向けて
  
3. 共感を得て、長く寄付をいただくために
  - (ア) 「スポンサー・チャイルド」の存在
  - (イ) イベントや報告会を通じたつながり
  - (ウ) 支援者による広報活動が裾野を広げる
  - (エ) 支援地の訪問で成果を実感
  - (オ) 成果報告で重要な要素
  
4. 変わりつつある企業からの寄付
  - (ア) 寄付の潮流（SDG,CSR,CSV）
  - (イ) 企業寄付事例

以上

# 寄附等の取り組みについて

2019年1月23日  
公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

## 1. 当楽団の収支構造

寄附や協賛のお願いに際しては、まずは当楽団の収支構造の現状をご理解いただく必要があります。

出演者が多いオーケストラの性格上、世界のほとんどのオーケストラは、演奏収入だけでは経営が成り立たないといわれています。これは国内においても同様で、当楽団についても例外ではありません。日本フィルの直近の収支状況は下記のとおりです。

### 収支の状況

オーケストラ・コンサートを年間150公演、室内楽を250回開催している日本フィルは主催公演、受託公演を併せ、事業費総額約14億円の70%以上を稼ぎ出しています。それ以外は国などからの助成金や企業・個人からの寄附、協賛により賄い、楽団の運営が成り立っています。

国からの助成金を除くと、毎年3億円以上の寄附等が必要となりますが、特定の大スポンサーを持たない当楽団は、事業継続のため常に数多くの法人、個人からの継続した寄附等が必要となります。2017年度における法人、個人からの寄附・協賛は244百万円、民間助成は57百万円となっています。



## 2. 当楽団の特徴

特定の大スポンサーを持たない当楽団は、より多くの皆さまから寄附等をいただく必要があります。より寄附しやすい多様な寄附制度を設けるとともに、別途会員制度の充実も図っています。

また、音楽団体として社会からの要請に応え「芸術性の追求」だけでなく、「社会性(右記ご参考)」の充実に力を注いでいます。これらの活動を行っている楽団を応援して下さる個人・法人に訴えかけるための様々な手段を講じています。

### (1) 寄附、会員制度の充実

#### 《法人向け》

##### ①特別会員(寄附)

継続的な寄附をいただくための定額による年間会員制度

##### ②一般寄付(寄附)

企業の事情により継続的な寄附が難しい場合のスポット寄附制度

##### ③協賛

演奏会毎に協賛金を拠出いただく制度。文化団体への支援による企業のイメージアップをアピールしています

#### 《個人向け》

##### ①パトネージュ(寄附)

継続的な個人寄附制度

##### ②オンライン寄附(寄附)

ホームページ上に設定のWEBによる寄付制度

##### ③サポーターズクラブ

当楽団のファンになっていただくきっかけ作りのための少額会費の会員制度

### (2) 公益的活動と活動の周知

当楽団はオーケストラ・コンサートおよび、エデュケーション・プログラム(教育的活動)、リージョナル・アクティビティー(地域活動)を3本柱とし、それに「被災地に音楽を」を加え、活動の柱としています。「温かな心の交流」をモットーに、これらの活動をより積極的に展開しています。

60年を超える歴史の中で培ってきた、他には類を見ないこれら公益性は、当楽団の本来の姿であり、大きな特徴です。この姿をより多くの皆さまにお知らせすることにより、皆様自身が進んで支援したいと思っただけの環境を整備しています。

#### 《主な活動の周知方法》

##### ①活動報告書の作成と配布

継続的なご支援をいただくため、年度収支を含めた年間の全活動を網羅した活動報告書を年度毎に作成し、支援企業、会員および寄付をいただいた皆さま等にお送りしています。

新たな支援者獲得のため、ホームページにも掲出し、広く一般にも公開しています。

##### ②各種冊子作成

楽団の多様な活動を周知するため、オーケストラ・コンサートの年間活動を一同に掲載したラインナップ、「被災地に音楽を」の継続した活動を網羅的に紹介した活動記録等を作成し、会員への送付や演奏会場での配布を行っています。

#### \*ご参考：具体的な社会的活動の内容

##### エデュケーション・プログラム(教育的活動)

未来を担う子どもたちを対象に、44年間続いているオーケストラ音楽との出会いを広げる「夏休みコンサート」、身近に音楽を感じることのできる年間200回を超える学校・施設訪問コンサートなどを広く展開しています。また、音楽による創造性や協調性を育む体験型ワークショップを開発。子どもたちの音楽との出会いの場を広げるだけでなく、音楽を通じたコミュニケーションを提案するこの活動は、企業の社員教育の観点からも注目されています。



##### リージョナル・アクティビティー(地域活動)

当楽団は音楽を通じた地域における活動を大切にしています。地元ボランティアとの協働で作上げる九州全県で開催するオーケストラ公演は、44年間継続しています。1994年には杉並区と友好提携を結び、「杉並公会堂シリーズ」や「60歳からの楽器教室」など、地域に密着した活動を展開しています。山口県宇部市では企業・行政との三者共同による「地域への文化還元事業」としてオーケストラ公演、病院等への訪問演奏、中学生対象の演奏指導や合同演奏会など、幅広い活動を継続的に実施しています。



##### 被災地に音楽を(被災地支援活動)

東日本大震災で被災された方々に音楽を届け、励ましていこうという「被災地に音楽を」の活動は、震災翌月の福島県二本松市の避難所を皮切りに、個人、法人の皆さまの温かいご支援のもと、途切れることなく継続し、2018年12月末現在でその実施回数は263回となりました。被災各地の避難所、仮設住宅、学校、高齢者施設など、様々な会場で演奏、演奏指導等を実施しました。

この活動は、2017年度より文化庁の委託事業として採択され、一部は国の事業として継続することになりました。



# 日本盲導犬協会 2000年代のファンドレイジング



内閣府公益認定等委員会ラウンドテーブル



専務理事 吉川 明  
2019年2月5日



# 会報誌「盲導犬くらぶ」

- ◆ 2003年1月「盲導犬くらぶ」29号からA4版16ページ(内4ページカラー・現在オールカラー)を年4回、1月、4月、7月、10月に定期発行  
＜13年間に28号と不定期発行＞
- ◆ 読者対象者：寄付者・ボランティア・支援者  
(ユーザー当事者には発送はするが、当事者向にはさらに別の刊行物)
- ◆ 内容：事業内容、寄付がいきていることをビジュアルで見せる
- ◆ 定期的発行、振込用紙同封(送付経費削減)



# 実演依頼はすべて受ける。寄付のお願い

◆ 2002年補助犬法の施行、2003年～2004年クイールブーム、実演依頼が増加。訓練士から「実演に行けば、犬の訓練ができなくなる」との悲鳴。

◆ 「実演依頼はすべて受ける」「寄付のお願いを堂々とする」「実演ができる職員、専門のボランティア・デモンストレーターを育てる」。3つの方針を2003年から実行。

- ・渉外部(法人寄付担当)2名→普及啓発部→普及推進部20名。

盲導犬を見てもらうことで寄付を集める。法人・個人寄付とも。

- ・寄付を集める＝支援の心を集める。普及業務が事業の柱。

ファンドレイザー育成につながる。

- ・デモンストレーター21人・イベントボランティア226人(実働)。

- ・2005年度から街頭募金活動を収入の1つの柱に育てる。

最高7,000万円。2016年度534回、配布した盲導犬シール61万枚、パンフレット36万枚。職員は年1回募金に立つ。



## 攻める広報室 リスク対応も担当

- ◆ 2005年4月 普及啓発部に広報室を設置。現在は総務部。  
盲導犬の課題提起、メディアへの取材依頼、パンフレット・ポスター作成補助、クレーム電話対応。
- ◆ 2003年 「盲導犬くらぶ」リニューアル配信。  
2003年 ユーザー向け「ともあゆ」配信開始(現US担当「パートナーズ」)  
2004年 ホームページ公開開始。2013年全面改修。  
2005年 メールマガジン配信開始。  
2011年 ツイッター。2015年フェイスブック、アメーバブログ。  
2014～2017年 ACジャパン「盲導犬CMキャンペーン」。
- ◆ 「補助犬法」「差別解消法」「島根のパピープログラム」「訓練士学校」  
「研究発表」「日盲の訓練方針」「パピーの育て方」「バーハンドル」「全盲ろうユーザー誕生」「青山一丁目駅事故」「中期計画」
- ◆ 「アイメイト蹴飛ばし事件」他各種クレーム対応。





# ターゲットは子供。盲導犬キャラバン

- ◆ 盲導犬に関心をもつのは子供たち。訓練センターで行う見学会は子供たちですぐに満席。次世代を担う子供たちに盲導犬のファンになってもらう。2003年から普及のターゲットは「子供たち」。
- ◆ 小中学校を盲導犬PR犬が訪問する活動は1992年（平成4年）から細々とやっていたが、本格的に取り組んだのは2005年から。2016年度には347校を訪問。累計2,600校、延べ15万人に会っています。
- ◆ 盲導犬キャラバンの名称は2008年から。学校を連続して訪ねるようになったから。
- ◆ 地元ライオンズクラブや企業に、訪問するための経費のスポンサーになっていただくことで、多くの学校訪問が実現できるようになった。「盲導犬はお仕事中はさわってはだめだよ」。子供たちは盲導犬のことをよく知っています。福祉学習の一環にもなっている。



# 「継続は力なり」。その努力をしているか？

- ◆ 約2万の募金箱が設置されていますが、募金を送金してくれないケースもある。1回目はしてくれても2回目以降はなしのつづて。募金箱管理上、大変なのが実情。
- ◆ 担当者から、一定期間入金がないと電話をして送金をお願いをしている。募金金額が少ないので送らなかったという声も聞くが、1年に1回は送るようお願いをしている。
- ◆ 個人賛助会員も2年目への継続のハードルが高く、2年目→3年目、3年目→4年目への継続率は上昇してくる。ポイントは1年目→2年目。
- ◆ 担当者から継続のお願いの電話をする。電話の際に、2005年度から始めた、口座からの自動引き落としの「マンスリー会員」に誘導している。マンスリー会員の寄付額は着実に増加している。
- ◆ 賛助会費や一般寄付の送金は、現金・銀行・郵便局の他、クレジットカードやコンビニ決済など、寄付者の利便性を高める努力をしている。



# 収入基盤強化プロジェクトチーム

- ◆ 2014年に収入基盤強化プロジェクトチームを結成。  
2011年東日本大震災以後の低迷からの復活。
  - ・データ分析に基づく管理、KPI(重要指標の設定)
  - ・①安定的な寄付の底上げ②遺贈対応の強化
  - ・マーケティング、ファンドレイジングの研究
- ◆ 個人寄付：賛助会員の継続のお願い、マンスリー会員への誘導。  
寄付者へお礼電話の徹底、感謝状の贈呈、会報誌送付
- ◆ 法。人寄付：賛助会員の会費納付のお願い、担当者へのお礼訪問。  
法人寄付担当者へのお礼訪問。
- ◆ 募 金：募金箱設置店への入金のお願い電話。募金箱寄付の  
8割以上を占めるスーパーの担当者への関係強化、出発式への招待。担当者のご紹介。  
ライオンズクラブ会員との関係強化。



# 遺贈寄付

- ◆ 遺贈寄付＝遺言による寄付＋相続財産の寄付＋信託による寄付
- ◆ 2003年 みずほ信託をはじめ3信託と覚書締結、東京総務が担当
- 2014年 普及推進部・収入基盤チームに担当変更→積極的対策
- 2018年 包括遺贈、不動産等の現物の遺贈にも取り組む
- ◆ 遺贈寄付を受けるための5つのステップ

①遺贈寄付についての基礎知識：遺贈寄付の理解、法務・税務知識、会計処理知識、事例に対する知識

「遺贈寄付ハンドブック」(JFR発行)、「遺贈寄付」(星野哲著・幻冬舎)

②遺贈寄付受け入れの準備：遺贈寄付受け入れの組織決定、会計処理、寄付メニューの設計、専門家との連携

③遺贈寄付導線の設計：ドナーピラミッドの理解

④情報発信：パンフレット・説明資料・ホームページ

⑤感謝：生前および逝去後のコミュニケーション



# ファンドレイザーの育成と5つの見える化

## ◆ ファンドレイザーの育成

ファンドレイザーの役割は資金調達。資金調達なくして事業の維持、拡大はない。お金を集めるだけでなく、人の理解や共感を集める。市民を巻き込みつつ、社会課題の解決に貢献したり、意義のある活動を支援する役割を持っている。コミュニケーション力、広報力が必要。組織の重要なポジション。

普及推進部・広報室、22人(約20%)。

## ◆ 5つの見える化

①課題の見える化:「お金をください」は売り込みにはならない

②経営の見える化:活動・経営の情報公開、健全経営

③寄付の見える化:寄付機会・方法の多様性、利便性

④成果の見える化:寄付がいきいて使われている。寄付者の満足・安心

⑤感謝の見える化:領収書、感謝状、会報の送付、接客・電話対応



# 倫理的な組織文化をつくるには

## Ethical Fundraising

### ファンドレイジングの7つのジレンマ

1. 汚れたお金      Tainted Money
2. 誠実さと透明性      Honesty and Transparency
3. スチュワードシップ      Stewardship
4. 利益相反      Conflicts of Interest
5. 外観上の不適切性      Appearance of Impropriety
6. 寄付者のプライバシー      Privacy
7. 報酬      Compensation

樽本 哲(さとし)弁護士とFRJ2018で発表。

出典はAFP2017 session No.855



# 汚れたお金

# Tainted Money

## ミッションと資金源との間の葛藤

- ・非難に値するような事業や行為を行っている寄付者から寄付を受け取るべきか？
- ・寄付を受け取った後にその事実を知ったときにどうするか？

### 事例

任意団体から2万円の寄付を受けた。休日にショッピングセンターで、その2万円の寄付領収書を張り出し、街頭募金をしていた。多額の寄付を集めているようだ。

- (1) 募金活動を見かけた職員はどのような行動をとればいいのか？
- (2) すでに受け取った寄付はどうするのか？



# 誠実さと透明性 **Honesty and Transparency**

寄付者・有望者には完全で正確な情報を提供し 正しい意思決定を促進する

- ・団体内で非倫理的な出来事や不祥事が発覚したときに寄付者や会員にいつどのような形で伝えるか？

## 事例

法人の創業者で、実質代表が孤軍奮闘して運営してきたNPO法人。  
残念なことに経理的な重大な不祥事が見つかった。

- (1) 法人としてどう対応したらいいのか？
- (2) どこまで公表すべきか？





# スチュワードシップ

## Stewardship

受託責任：寄付者から託された財産は寄付者の希望に従って使用する

- ・使途が指定された寄付金を他の目的に転用することができるか？
- ・団体は寄付金の使途についての方針をどの程度まで明らかにしておくべきか？

### 事例

公益財団法人は、寄付の目的外使用に対し大変厳しく、公益取消しにつながる可能性があるが、社会福祉法人は目的外使用には厳しくなく、法的にはグレー。法的にはグレーでも、寄付者の希望以外に使ってもいいのか？



# 利益相反（競業）

# Conflicts of Interest

理事個人や理事が代表を務める企業・団体との取引は 公正かつオープンに行う

- ・理事との取引は完全に透明性を確保する
- ・他の取引と同じ規則と規範に従う（例：入札）
- ・バックマージン、リベート

（公益法人の理事会の権限：競業・利益相反取引の承認＝法人法84条、90条1項2項、197条）

## 事例

事業拡大に伴い、事務所の増床・改装を計画していたところ、理事から「安くやってやる」との声がかかり、見積もりを取ると確かに相場より安いようだ。

- （1）理事の会社に工事をお願いしていいのか？
- （2）何か手続きが必要か？
- （3）その他、気を付けることはあるのか？



# 外観上の不適切性 Appearance of Impropriety

法を守り 規制を遵守しても それが倫理的な行動であるとは限らない

- ・寄付者から遺贈を受けた財産が遺言者に生計を依存する者の将来にとって必要不可欠なものであった場合に、それを返還することの是非？

## 事例

前年12月に高齢者の女性から100万円の寄付があった。年度が替わり、決算書も評議員会の承認を得て確定した7月になって、寄付者の実娘から電話があり、母親の失火で家は全焼し入院。退院したら施設に入りたいが、そのお金がない。寄付を返してもらえないかとの相談を受けた。

- (1) 寄付を返還することは許されるか？
- (2) 寄付の返還の意思決定は誰がどのように行うべきか？
- (3) 正味財産増減計算書/経常外増減の部/経常外費用/寄付金特別損失



# 寄付者のプライバシー

## Privacy

寄付者の個人情報にはファンドレイザーや役員ではなく  
団体に帰属する

- ・ファンドレイザーやコンサルタントが以前所属していた団体の  
寄付者や会員から寄付の相談を受けることはよいのか？

### 事例

退職することとなったファンドレイザーの個人所有のPCには、寄付者の個人情報が入ったままになっている。また、スマホには有力寄付企業の担当者など携帯電話番号が入っている。どうしたらよいか？



# ファンドレイザーの報酬

## Compensation

有望者や寄付者の名前を提供した者に報酬を支払ってはいらない

ファンドレイザーやコンサルタントの報酬は調達した資金の割合に基づいて支払われるべきではない

- ・ボーナスやインセンティブはどこまで許される？
- ・クラウドファンディング等の寄付仲介サービスのシステム利用料は？

### 事例

潤沢な資金を有する慈善団体でファンドレイザーとして活躍していたあなたが、資金的に不安定な別のNPO法人に転職。前所属団体に寄付支援者から、「あなたの移った先の組織に興味がある」と連絡が入った。

- (1) この支援者に対して所属する法人の情報を提供してもよいか？
- (2) 前の組織に対する寄付を取り消し、現在組織への寄付は許されるか？
- (3) 前の組織に対する寄付とは別に寄付をしてもらうことはどうか？



ありがとうございました。

# Public Resources Foundation

— 2017年度事業報告書 —

## 賛助会員のお願い

### 公益財団法人パブリックリソース財団

#### 賛助会員のお願い

賛助会員として、弊財団の組織基盤強化にご支援くださいますようお願い申し上げます。

#### 【賛助会員制度の概要】

- ① 賛助会費の使途：賛助会費は、全額、弊財団の運営経費として活用させていただきます。
- ② お申込み単位：(個人) 1口 年1万円、(法人) 1口 年10万円とし、何口でも可。
- ③ 弊財団の賛助会費は、税制優遇の対象となります。  
お申し込みいただいた皆様には、税務申告用に弊財団発行の領収書を郵送でお送り申し上げます。
- ④ 賛助会員の特典：
  - ・ご希望に応じ、寄付およびその他の社会貢献の方法について、個別相談の機会を活用いただけます。(2回目以降は有料となる場合があります。)
  - ・弊財団のメーリングリストに登録し、メルマガ等で最新の情報をお届けいたします。
  - ・弊財団の出版物を優待価格で購入できます。
  - ・弊財団が主催、共催する研修会、セミナー等に優待価格で参加できます。

#### 【お申し込み方法】

##### オンラインの場合

弊財団のホームページからオンライン寄付サイトGive One(ギブワン)へ移り、Give Oneシステムで賛助会員のお申し込みがいただけます。

##### 銀行振り込みの場合

1. 「賛助会員申込書」にご記入の上、以下にお送りください。  
(「賛助会員申込書」は当財団ウェブサイトからダウンロードいただけます)

#### 公益財団法人パブリックリソース財団

メール：center@public.or.jp Fax：03-5540-1030

2. 最寄りの金融機関でお振込をお願いいたします。

#### ジャパンネット銀行 (銀行コード：0033)

はやぶさ支店 (支店コード：003)

口座番号：普通預金 1872673

口座名義：公益財団法人 パブリックリソース財団寄付金口

フリガナ：ザイ)パブリックリソースザイダンキフキンクチ

#### ゆうちょ銀行

〇一九(ゼロイチキユウ)支店

口座記号：00120-9

口座番号：当座預金 0487339

口座名義：公益財団法人 パブリックリソース財団

フリガナ：ザイ)パブリックリソースザイダン

#### 公益財団法人パブリックリソース財団

〒104-0043 東京都中央区湊2丁目16-25 ライオンズマンション鉄砲洲第3 202号

【まずはお電話またはメールで  
お問い合わせください】 TEL:03-5540-6256 FAX:03-5540-1030  
E-mail:center@public.or.jp HP:www.public.or.jp

公益財団法人 パブリックリソース財団

# ごあいさつ

弊財団理事・顧問の故 今田 忠さんとトヨタ財団の故 林雄二郎さんが著した『フィランソロピーの思想』において、“自分たちの公益活動は「誰のための」「何のための」公益かということを議論すべきである”との記述があります。

私たちの実践する「民間公益活動」においては、“意志の発露”が重要です。

パブリックリソース財団は「ドナーファースト」、寄付者起点の財団です。

寄付者という個人(または企業)の持つ意志を尊重するものですが、その意志の中に他者との「分かち合い」の精神を見出します。

弊財団が掲げる「ドナーファースト」とは、寄付者個人の利益を目的とするのではなく、

寄付者の持つ「人間愛を基本とした利他性」という価値を尊重するものです。

それはすなわち、「ヒューマンファースト」につながると、私たちは考えます。

例えば、「オリジナル基金」をつくる時、誰を支えたいのか、何を大切にしたいのか、

寄付者と一緒に解決すべき社会的課題を見つけ出し、基金をつくります。

そして、最良のパートナーとなるNPOや社会的企業あるいは有為な若者を見つけ出します。

寄付は助成金、奨学金となってパートナーの活動を支え、寄付者が望む社会へと一歩一歩近づいていくのです。

その実践の成果を測り、感謝とともに寄付者にお伝えするとき、寄付の手ごたえを実感していただけます。

このような「寄付・助成・実践・成果・感謝」が、新しい価値と社会を創造するフィランソロピーのサイクルなのです。

寄付者お一人おひとりの思いや志が広がる時、

誰もが希望を失わず、生きがいをもっていきいきと生きられる社会を享受できるのだと信じています。

弊財団の5年目・2017年度の実績と、寄付者等の皆様の声を取りまとめましたので、ご高覧ください。

平素のご支援、ご協力に感謝し、引き続きのご支援、ご指導をお願い申し上げます。

2018年夏

公益財団法人パブリックリソース財団

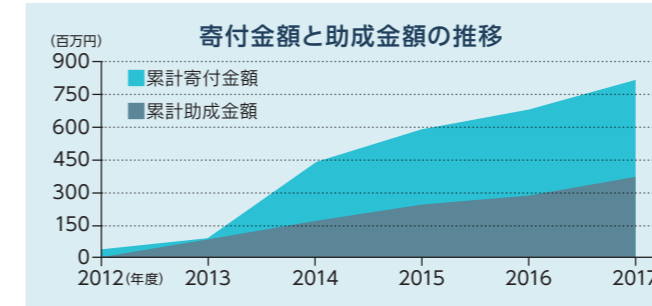
代表理事 久住 剛(理事長)

代表理事 岸本 幸子(専務理事)

# 数字で見る2017年度のパブリックリソース財団

寄付金額 ▶ 133,374,897円

2013年1月に公益財団としてスタートして以来、6会計年度で累計約7億9千万円のご寄付をお預かりし、約3億7千万円を助成金として提供しています。



寄付件数 ▶ 5,567件

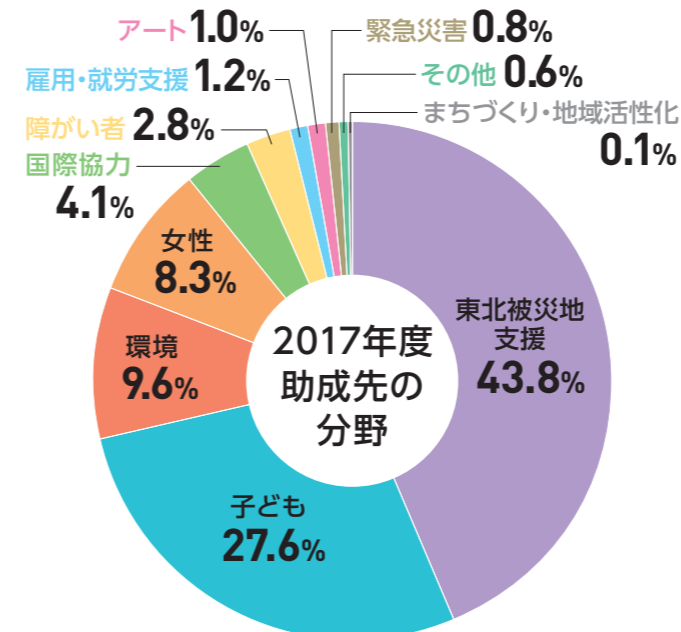
多くの方々からお志のこもったご寄付をいただきました。このうち5,179件がGive One(ギブワン)を通じたオンライン寄付、343件がオリジナル基金などの寄付でした。

応募数(個人・団体) ▶ 404件

全国各地よりたくさんのご応募をいただきました。

助成金額 ▶ 73,951,117円

いただいたご寄付は、個人への奨学金やNPOなどの団体への助成金として提供されました。東日本大震災支援、子ども、環境や女性など幅広い分野の活動を後押ししています。



Give One登録団体数 ▶ 171団体

オンライン寄付サイトGive One(ギブワン)を通じて、パブリックリソース財団とNPOのネットワークがさらに拡大しました。

助成団体数 ▶ 201団体

Give One(ギブワン)による助成や前年度からの継続助成を含め、201の団体と助成事業を進めています。団体の所在地も北海道から沖縄まで、全国各地へ広がっています。

コンサルティング件数 ▶ 9件

パブリックリソース財団の特色のひとつが、NPOへのコンサルティングサービスです。本年度も9の団体への組織診断や組織基盤強化のコンサルティングを行ない、団体の活動とさらなる成長を支援しました。

掲載メディア ▶ 新聞15紙、雑誌2冊  
書籍1冊、ラジオ5局

パブリックリソース財団の動きをメディアがキャッチし、記事として掲載いただく機会が増大しました。

設置基金数 ▶ 17基金

多様なテーマをもった基金を続々と設立しています。今年度も6つの基金を新たに設立しました。

AED設置数 ▶ 5台

2種類のAED基金に集まった寄付を元に、今年度5台のAEDを寄贈しました。

奨学生数 ▶ 40人

地域の金融機関との協働や個人の方からのご寄付により、昨年度の22人より倍近くの学生を奨学生として選定しました。



# 2017年度 What's new

## ① 新基金の創設

2017年度は、以下の6つの基金が新しく設立されました。

- I.H.K基金 (→P.06)
- ゴールドマン・サックス基金
- 高山基金 (→P.07)
- 大和証券グループ 輝く未来へ 子ども応援基金 (→P.14)
- 東北3.11基金 (→P.19)
- ゆーじチャレンジ基金 (→P.06)

昨年度の新規設立が2つだったのに対し、本年度は3倍の設立となりました。また、プログラム内容も、子どもの貧困対策、震災復興からNPOの組織基盤強化、児童養護施設退所後の児童に対する奨学金支援など多様性が見られました。「ただ寄付をする」のではなく、そこにご自身の意志や希望をのせ、オーダーメイドな支援の仕組みを作られる方が増えています。



弊財団は、オリジナル基金の設立を推進しています。



「大和証券グループ 輝く未来へ 子ども応援基金」は、同社の「大和証券グループ 夢に向かって!子どもスマイルプロジェクト」の一環として創設されました。

## ② 初の顕彰事業の実施

2017年度は、弊財団初の顕彰事業「『チャンピオン・オブ・チェンジ』日本大賞」を実施しました。

本賞は、米国のフィッシュ・ファミリー財団共同創設者である厚子・東光・フィッシュ様によって創設されたものです。日本で頑張っている女性の活動に光を当てることを目的に、地道に活動を続けてきた女性リーダーを表彰するもので、栄えある第1回の大賞は高橋亜美様(児童養護施設等退所者のアフターケア相談所「ゆずり」は)に贈られました。表彰式当日100名を超える方々にご来場いただき、高橋さんをはじめとした女性リーダーの志や知恵を共有する機会となりました。(→P.9)



共催団体・協賛企業・選考委員長・ファイナリストの皆様



(左から) 厚子・東光・フィッシュ様、高橋亜美様、ダニエル・ペレル様(ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク)

## ③ 日本初! 寄付適格性評価の開発とValueMakerオープン

弊財団では、ご寄付を1円も無駄にすることなく効果的に活かせる団体を寄付者や社会的投資家にご紹介するために、「寄付適格性」の評価を開発・開始しました。いま、取り組まなければならない社会的課題に対して、効果的な事業を行う団体であるか(社会的インパクト)、寄付を確実に活かす団体であるか(信頼性)、という2つの視点と、4つの領域「目的」「インパクトの実践」「人」「財政と運営」においてNPOを評価します。また、寄付適格性評価に基づく「NPO格付け」を掲載した寄付者参加型サイト「ValueMaker(バリューメーカー)」をオープンしました。(→P.16)



ValueMakerのロゴマークは、人のつながりや結びをシンボルに、グリーンにサステナブルなイメージをのせ、デザインされました



サイトイメージ

## ④ 日本初のSROI認証の取得

Panasonic NPOサポート ファンド(パナソニック株式会社)の支援した「認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク」の組織基盤強化事業に対して、弊財団は2016年にSROI(Social Return On Investment)評価を行いました。同評価レポートは、英国にあるSROIの評価団体「Social Value International」の認証(Assurance)を、日本で初めて取得しました。これまで、NPOの組織基盤への助成は特定プログラムへの直接支援とは違い、効果を測るのは難しいとされてきました。今回採用した評価手法が、組織基盤強化の社会的インパクトを測るひとつの方法として専門的第三者に認められたこととなります。(→P.17)



認証取得の報告会を行いました



This is a shortened or summary version of a report assured by Social Value International

「Social Value International」の認証を受けたのは日本初です

結婚記念、退職、相続や遺言による寄付など、人生の節目に寄付をしたい。企業の新商品発表、周年記念事業などの折に社会貢献をしたい。そのような寄付者の様々な思いを形にする、オリジナル基金を推進しています。弊財団に創設された3つのオリジナル基金をご紹介します。

## 純子ども基金 ～子どもたちに未来を担ってほしい

純子ども基金は、14歳で交通事故によって亡くなった國田純さんのご両親が、亡き純さんの生きた証を残し、やりたいことができなかつた純さんの代わりに、未来を担う子どもたちが多くの可能性に挑戦できる環境を整えたいと事故の賠償金をあてて設立されました。

純さんの両親は、子どもを支援するNPOに関わった経験があり、その過程で、永続的な活動のためには、NPOの組織基盤の強化が重要と考えられ、純子ども基金はそこに焦点をあてた助成を行っています。団体は、純さんのルーツである福島県と千葉県から選定しました。団体には、3年間の継続支援(毎年審査あり)を行い、1団体当たり総額4,000,000円を助成します。

助成金額 …… 2,000,000円  
 応募団体数 …… 5団体(審査は2016年度に実施)  
 助成団体数 …… 2団体(審査は2016年度に実施)  
**助成団体名と助成事業名**  
 ● ふくしまこども食堂ネットワーク(福島県)  
 「福島県内の子ども貧困ネットワーク構築事業」  
 ● NPO法人ウィーズ(千葉県)  
 「離婚・別居をとまなう両親の葛藤の間で揺れる子どものケアプロジェクト」

## ゆーじチャレンジ基金 ～医療に係る人を支えたい

ゆーじチャレンジ基金は、「100万円で一人の人生を、より良いものに変えることができるなら、チャレンジしたい」という寄付者の意志のもと、創設されました。静岡県内の児童養護施設や里親宅で暮らしている子どもが、高校卒業後に進学する費用を奨学金として給付し、社会的自立を支援することを目的としています。

助成金額 …… 1,000,000円  
 (奨学金は、在学期間中に分割して支給します)  
 奨学生数 …… 1名

### 寄付者のコメント

ゆーじチャレンジ基金 創設者  
**伊藤 裕司**様

経済的なことも含めて環境によって子供の成長は変わってしまいます。子供自身の力では変えられない環境に大人が責任を持つべきですが、それがかなわないことも多くあります。自分に経済的な余裕がありましたので、経済的な問題で能力を伸ばす機会を失っている子供がいるなら、サポートしてあげたいと思ったところが始まりです。まだ始めたばかりですが、誰かが喜んでくれるなら、それでいいと思います。



描いてもらった似顔絵

## I.H.K基金 ～夢をあきらめさせない

I.H.K基金は、将来の医療福祉分野の発展を願い、また新たな「女性の貧困」を生まないために創設されました。東京都内の児童養護施設や里親宅で暮らしている女子が、高校卒業後に進学する費用を奨学金として給付し、社会的自立を支援することを目的としています。また、I.H.K基金では社会人ボランティアがメンターとして奨学生に寄り添い、自立へのフォローアップを行います(協力:NPO法人ブリッジフォースマイル)。

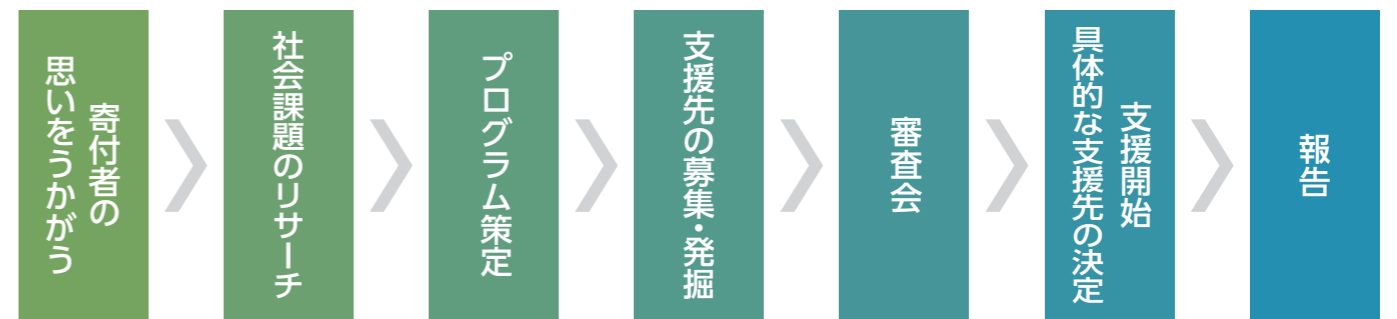
助成金額 …… 1,000,000円  
 (奨学金は、在学期間中に分割して支給します)  
 奨学生数 …… 1名

## 志を活かすオリジナルプログラムの設計

弊財団では、継続的に社会貢献したいという方の志をかなえるために、新規に財団を設立すると同様の機能を持たせることのできる「基金」の設立でサポートをしています。基金は100万円から創設できます。ご希望の名称を付けられるほか、ご寄付いただく方の想いを基金に表すことができます。

- 個人の方も、法人の方も創設いただけます。
- ご希望の名称をお付けいただけます。
- 弊財団へのご寄付は税制優遇の対象となります。
- ご希望によって、寄付者の基金設立に寄せる想いやご家族の歴史を、パンフレットにまとめます。
- まとまった額のオリジナル基金の場合は、複数年にわたる助成を設計することができます。
- 支援の形は「経済的に困難な子どもたちへの奨学金」「NPO等への資金助成」「熱心に活動する若手リーダーへの顕彰」など様々なご要望についてご相談をお受けしています。

### <オリジナル基金創設の流れ>



## 遺贈、相続をきっかけとする寄付

ビジネスや家庭で充実した人生を築いてこられたゴールデンエイジの方々へ、「末永い社会貢献」を実現していただく遺贈や相続に伴う寄付をご提案しています。

遺贈とは、遺言書をつくり、残す財産(遺産)を相続人以外の特定の人や団体に送ったり、寄付することをいいます。遺贈先を当財団にご指定いただくことで、生涯で築かれた財産を「オリジナル基金」として末永く社会に役立てることができます。また、相続された財産の一部をご寄付いただき、故人の名前を冠する「メモリアル基金」をおつくりいただけます。故人の生涯を讃え、遺志を受け継ぐことができます。

※弊財団は、全国レガシーギフト協会の「いぞう寄付の窓口」加盟団体です。安心して遺贈を行うための無料相談や、遺贈寄付に対する情報の提供、遺贈の寄付先団体のご紹介(基準をクリアした団体のみ)、遺贈の活用方法のご提案を行います。



### 専門家のコメント

ランドマーク税理士法人 代表  
**清田 幸弘**様

税制改正による基礎控除額の引き下げで、相続税対策のご相談が増えています。社会的な意義のある寄付を選択肢にする方へ、パブリックリソース財団と共同して個人基金の設立や遺贈のご提案を広げていきたいと思っております。  
 ※ランドマーク税理士法人は当財団と提携し、同社の顧客に相続対策の一環として個人基金の設立・運営から寄付先、支援団体の選定アドバイスを提供しています。



### 財団初の遺贈寄付の実行

- 2017年度は、弊財団初の遺贈寄付による寄付が実行されました。寄付者は高齢の女性で、戦後の苦しい時代を生き抜いた経験から、日本のすべての子どもたちの健やかな成長を願って、弊財団にご寄付をされました。2018年度以降、本寄付は「高山基金」として、寄付者のお志に基づいて運営されます。

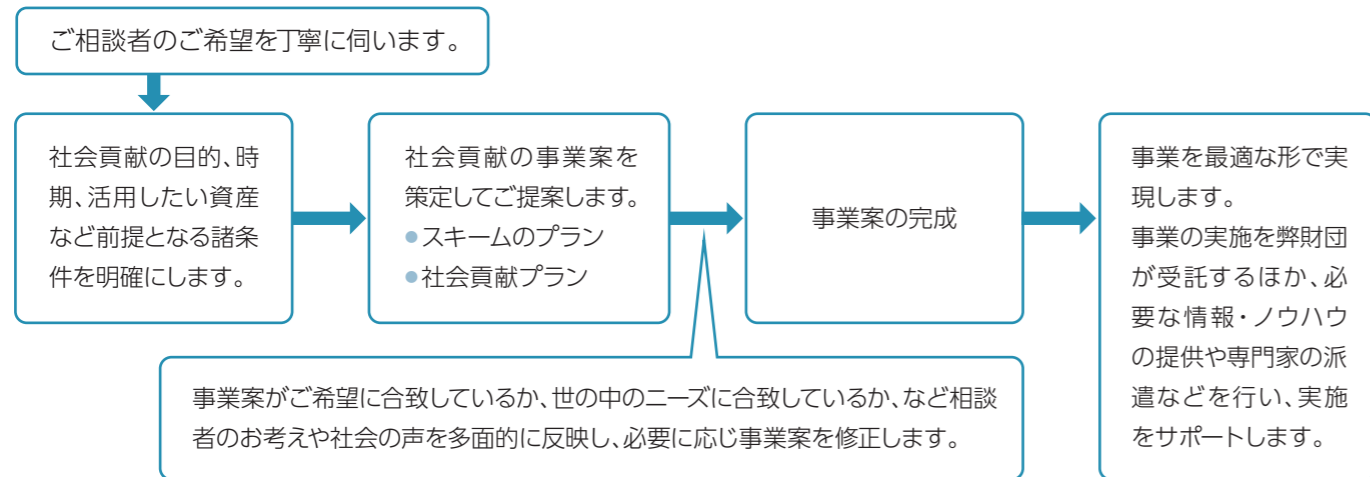
弊財団では、社会貢献を考える個人、企業の方、寄付や遺贈をサポートする弁護士等の専門家や金融機関がお持ちになる様々なご質問、ご要望におこたえして、お志の実現をサポートしています。

- 想いを実現できる最適な寄付先はどこだろうか？
- オリジナル基金を創設したい！
- 遺贈寄付にまつわる様々なご相談
- 不動産や株式などの資産寄付を考えている。
- 弁護士や税理士など遺贈寄付に習熟した専門家を紹介してほしい！
- 一般財団、社団をつくりたい。
- 既存の財団の改善や運営受託
- 公益法人化に向けての助言、支援
- 助成プログラムの見直し、制度設計、実施支援
- 企業の社会貢献プログラムの設計や運営の受託
- 社員募金、社員ボランティア、プロボノプログラムを実現したい！
- 購買連動型寄付(コース・リレーテッド・マーケティング)の企画、実施支援 など

**ご提案する社会貢献活動の例**

- ・ NPOや社会的企業への助成金提供
- ・ 個人に対する奨学金制度
- ・ 個人や団体を顕彰する表彰制度
- ・ ボランティアやスタディツアーの実施
- ・ NPOや社会的企業の組織基盤強化のためのコンサルタント派遣や研修事業の実施
- ・ 政策研究、アドボカシー、ネットワーキングの支援

**<ご相談の流れ>**



**<実施例のご紹介>**

**「SOMPOちきゅう倶楽部」～社員募金による寄付活動の運営支援**

SOMPOホールディングス株式会社の役員によるボランティア組織「SOMPOちきゅう倶楽部」の「Heart & Artsプログラム」は、障害者がアートの力で自分を自由に表現することを実践している団体を支援する助成制度です。弊財団では、同プログラムの設計を行うとともに、支援先団体の公募と審査を行い、ちきゅう倶楽部に寄付先団体を推薦しています。

**「azbilみつばち倶楽部」～寄付先団体のデューデリジェンス**

アズビル株式会社および同社の有志従業員による寄付の仕組みである「azbilみつばち倶楽部」では、倶楽部会員が毎月100円を拠出して、会員が推薦する市民活動団体に対して資金支援を行なっています。弊財団では、会員が推薦する団体の審査を行い、寄付先決定のサポートをしています。

**「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞の創設  
～地道に活動に取り組み社会を変える女性に光を当てたい**

弊財団ではフィッシュ・ファミリー財団からのご要請を受けて、日本国内で、地域社会における暮らしの質の向上や誰もが安心して暮らせる社会の実現に向けて、イノベティブな発想をもとに活動を続ける女性リーダーに贈る「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞を創設しました。

フィッシュ・ファミリー財団の共同創設者である厚子・東光・フィッシュ氏の「社会変革に向けて勇気をもって自ら行動を起こす女性リーダーを応援したい」「地道に活動を続けるに女性の活動に光を当てたい」という熱い想いを実現するために、表彰制度という形の社会貢献が実現しました。弊財団は、表彰事業のコンセプトを創るところから、広報、公募、審査、表彰式まで、一貫してフィッシュ・ファミリー財団と協働で取り組みました。

**創設者のコメント** 米国 フィッシュ・ファミリー財団 共同創設者・理事 **厚子・東光・フィッシュ** 様

**「チャンピオン・オブ・チェンジ」日本大賞を設立した理由** (表彰式でのスピーチより一部抜粋)

この賞を創設した理由についてお話ししたいと思います。2013年にオバマ大統領の発案により、アジア太平洋島嶼地域の女性たちを支援する「Champions of Change」という賞がホワイトハウスから授与されました。自分のことで恐縮ですが、私は表彰された8人のリーダーのうちの1人に選んでいただきました。おそらくJapanese Women's Leadership Initiative、日本女性のリーダーの育成プログラムや、東北支援が受賞の理由ではないかと思っています。本当に名誉なことですが、私が最も感銘を受けたのは、一緒に受賞した7人の皆さんが、それぞれ違う分野でアメリカ社会の問題にチャレンジし、それを乗り越えて社会貢献をしていらっしゃるということでした。日本にも、地域社会に貢献し、草の根で頑張っている素晴らしい女性たちがたくさんいらっしゃいます。オバマさんほどのことは出来なくとも、何か賞を出すことによって日本の女性の活動に光を当てることができないかとずっと考えていました。

2013年に私が受賞してから、2017年のこの日まで、ずいぶん長くかかりましたが、やっと今日ここにこの賞を発表することができました。全国から他薦で応募いただいた145名の中からまず26名に絞り、そこから8名の素晴らしいファイナリストを選ばせていただきました。そして今日、15分ほど前に終わった最終選考会で大賞を差し上げる方が決まりました。ファイナリストの8人の受賞者は皆さん素晴らしく、大賞を1人選ぶのは、選考委員の意見が分かれ、本当に大変でした。時間もかかりましたが、これだけの素晴らしい方たちが日本で活躍しているのをとても嬉しく思いますし、皆さんの活動に心から感謝と敬意を表したいと思います。



**大賞受賞者のコメント** 児童養護施設等退所者のアフターケア相談所「ゆずりは」所長 **高橋 亜美** 様

昨年12月に大賞を頂いた直後にとてもたくさんの取材や寄付がありました。どちらも本当にありがたかったのですが、いちばん嬉しかったのは、7年やってきて、こんなに応援してくれた人たちがいたと改めて感じられたことです。こんなにいろんな人に支えられて、みんな見守ってくれていたということがすごく嬉しかった。この活動を認め、ねぎらってもらったり、お手紙や寄付をいただいた。日頃つい忘れがちなこと初心に戻って振り返る機会をもらったのがすごくよかったと思います。代表なので自分の名前ばかりが出がちですが、一緒にやってくれている仲間やずっと支えてくれた人たちがいたからこそこの賞だと思っています。



**内容:** 大賞1名…正賞(ティファニー社製カップ)と副賞100万円  
ファイナリスト7名…ティファニー社製の記念品

**応募総数:** 145名

**表彰式参加者数:** 110名

**大賞:** 高橋 亜美様

児童養護施設等退所者の  
アフターケア相談所  
「ゆずりは」所長



**ファイナリスト:**

- 風間 美代子様 NPO法人多摩草むらの会代表理事
- 兼子 佳恵様 NPO法人石巻復興支援ネットワーク(やっべす)代表理事
- 久保田 翠様 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長
- 武村 幸奈様 株式会社はたけのみかた代表取締役
- 藤原 志帆子様 NPO法人人身取引被害者サポートセンター ライトハウス代表
- 杜 恵美子様 NPO法人NPO亀岡人権交流センター理事長
- 矢田 明子様 NPO法人おっちラボ代表理事、Community Nurse Company 株式会社代表取締役

30年後の福島が、誰もがいきいきと生きていける地域となることに貢献するNPO等を支援しようと、福島県内の実業家および地域貢献をめざす企業からの寄付によって2014年に創設されました。東日本大震災から7年が過ぎましたが、福島県は原発事故によって、住民の帰還や復興などが他県に比較して立ち遅れています。それにも関わらず、資金支援は次々と撤退しています。福島のNPOは「増える支援ニーズ」と「資金の減少」というはざまに立たされており、職員や役員たちもギリギリの状況で奮闘している現実があります。2017年度は「助成事業」「コンサルタント養成講座」「ふくしま志高塾」の他、福島県内のNPOの持続的展開を考える「公開研究会」を開催しました。

**寄付者のコメント**

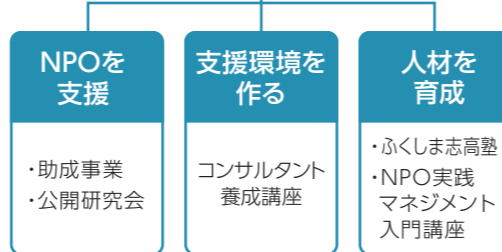
ふくしま未来基金 創設者  
佐藤 勝三様



30年後の福島を元気で明るい社会にするため、パブリックリソース財団と一緒にふくしまの未来づくりに取り組み始めて、3年目となりました。ふくしま未来基金を始めとした「助成事業」や「ふくしま志高塾」「コンサルタント養成講座」など、様々な方向から複合的に支援を行うことで、成果を上げはじめています。福島の団体が今後ますます元気になるように、県内の皆様と共に、福島の未来を創っていかれたら良いと考えております。

**30年後の福島**

NPOによる、成果の出る取り組み



**2本立ての助成事業**

福島の将来を支える中核的な団体への「未来づくり助成」と、人々の心と生活の復興に貢献する民間活動を支援する「まちづくり草の根助成」の2本立てで助成事業を行っています。

**【未来づくり助成】**: 300万円の助成金+50万円分のコンサルティング支援

**【まちづくり草の根助成】**: 100万円の助成金



寄付金額(累計)……352,580,000円

助成金額……30,829,100円

応募団体数……40団体

助成団体数……18団体

助成団体名と助成事業名

【未来づくり助成】( )内は支援年数

- 一般社団法人えこえね南相馬研究機構(初)  
「子どもたちに循環型の未来をつくるコミュニティバイオガスのモデルづくり」
- NPO法人がんばろう福島、農業者等の会(2)  
「福島の農業者と首都圏企業をつなげる「3Fプロジェクト」」
- GoodDayMarket実行委員会(2)  
「グッデイマーケット」
- NPO法人コースター(2)  
「福島の未来を担うコーディネーター育成のためのプラットフォーム構築事業」
- NPO法人福島県有機農業ネットワーク(2)  
「有機農産物の参加型地産地消によるコミュニティ再生」
- NPO法人みんなのひろば(初)  
「「ほーかごひろば」新規スタッフ育成による組織基盤強化プロジェクト」
- NPO法人Leaf(初)  
「ふくしまの農と食のプラットフォーム「Fukushimart」構築事業」
- NPO法人Lotus(3)  
「地域と子どもをつなげる木育子育て「すべては子どもたちのため」」

【まちづくり草の根助成】

- 公益社団法人あい権利擁護支援ネット  
「東日本大震災・原発事故避難民の生活再建のための権利擁護促進事業」
- NPO法人あさがお  
「ともに手をつなぎひかりに」
- 一般社団法人オープンデータラボ  
「復興支援マップの情報開示と自治体連携事業」
- 一般社団法人JAST(日本ソーシャルセラピストアカデミー)  
「たいせつなのは思いやり「こどもこころの防災士」育成事業」
- NPO法人青春基地  
「福島県浜通りの原子力災害被災エリアで生まれ育つ生徒を対象にした「やりたいこと」に挑戦できる学習プログラムの提供」
- NPO法人勿来まちづくりサポートセンター  
「海フェス2017～ライフセービング体験プログラム～」
- 福島移住女性支援ネットワーク(EIWAN)  
「からふる(多文化)ふくしまプロジェクト」
- 認定NPO法人ふくしま30年プロジェクト  
「原発事故被災者が現状を知ることでの自らの言葉を持ち、自立を助ける活動」
- 福島大学スタ☆ふくプロジェクト  
「福島を感じて考えるスタディツアー「スタ☆ふく」」
- ママチャンネルまつり実行委員会  
「福島のママによる福島での子育てをする人、応援する人が集まるイベントの実施」

**NPO支援の人材を増やすための「コンサルタント養成講座」**

NPOマネジメントの支援ができるコンサルタントを養成することを目的に、「NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座」を開講しました。今年は「福島の団体を支援できること」を条件に、東京で受講をしてもらいました。講座は「通信講座」「教室学習」「実際に福島で活動するNPOでの実習」の3本柱で行いました。16名の修了生は、今後経験を積みながら、福島のNPOの支援をします。



**受講生のコメント**

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 常務執行役員  
南雲 岳彦様



私は、営利企業で体得した経営ノウハウを、これからはボランティアでNPOの経営支援にも役立てていきたいという願いから、この講座を受講しました。この講座は、座学を通じた理論の学習とNPO訪問による実践のバランスが素晴らしいのが特徴です。様々なバックグラウンドのメンバーと協力しながら学んでいくのですが、営利企業と非営利組織の共通点や違いを知る上で大変役に立ちました。民間企業等でご経験を積まれたシニアの方にもお奨めです。

受講生人数……16名

総受講時間……通信講座[30日間]

教室学習[38時間]

実習[30時間]

実習先団体……4団体

受講生満足度……100%(教室学習・実習において「満足」「概ね満足」)

講師……株式会社 PubliCo 代表取締役CEO 長浜洋二氏

● 株式会社One Vision 中野未知子氏

● NPO法人日本ファシリテーション協会 フェロワー 加留部貴行氏

● 公益財団法人パブリックリソース財団 事務局長 田口由紀絵

**新しいプロジェクトに取り組む人を育てる「ふくしま志高塾」**

未来を志向した夢のあるプロジェクトを地域で実現できる人材を育成するため「ふくしま志高塾」を開講しました。ふくしま志高塾は、「講義研修編」「実地研修編」「企画研修編」「メンタリング」の4段階で構成されています。塾生たちは7ヶ月かけて熟成させたプロジェクトを「プレゼンテーション大会」で発表し、会場の方々から意見や応援をいただきました。

受講者数……9名

プレゼンテーション大会参加者数……48名

総受講日数……7日間+メンタリング期間4ヶ月

講師……● 一般社団法人ふくしま未来研究会/志高塾・塾頭 佐藤勝三氏

● 老荘思想研究者 田口佳史氏

● 社会起業大学 学長 田中勇一氏

● NPO法人アスヘノキボウ 代表理事 小松洋介氏



**NPOの持続的展開を考える公開研究会**

事業・組織の再編・継続、人材のケアと再編成、財源の再構成などの課題と方策を探ることを目的として、福島県内外の専門家や先駆的取り組みを行うリーダー等と公開研究会「福島の未来に向けて、リラクゼーションとリストラクチャリング《再構成》で、ギアチェンジしよう!!」を開催しました。この研究会でわかった、福島のNPOの抱える課題や現状に対して、当基金では来年度以降にプログラムを進化させていきます。

参加者数……27名

プレゼンター

● NPO法人ビーンズふくしま 中鉢博之氏

● NPO法人ホールアース研究所 ホールアース自然学校 和田祐樹氏

● NPO法人ザ・ピープル 吉田恵美子氏

● NPO法人しんせい 鈴木綾氏

コメンテーター

● 社会起業大学 田中勇一氏

● 税理士 安倍修太郎氏

「魚沼の未来基金」では、新潟県魚沼地域の塩沢信用組合の組合員を中心とする住民や企業の皆様からの志あるご寄付をもとに、地域の未来を担う人材に、返済不要の給付型奨学金「はばたき奨学金」を給付しています。

## 魚沼の未来基金の特徴

信用組合が組合員に呼びかけて寄付を募り、共に地域に貢献する社会貢献のプラットフォームを提供するのは、全国初の取り組みです。公益財団と協働し、基金を公益財団内におくことで、寄付者に税制優遇のメリットを提供すると同時に、寄付金使途に透明性を実現しています。



(左から) 林南魚沼市長、小野沢理事長、寺尾審査委員長、佐藤魚沼市長

### 基金創設者のコメント

塩沢信用組合 理事長  
小野沢 一成様



ふるさと納税は、自治体からの返礼品を目当てにした「カタログショッピング」的な様相を呈している。同じ寄付でも見返りを求めない善意によるもの。私どもは、その違いを実感している。同じ一人親世帯の高校生で、奨学生に選ばれた子は、学業も部活動も高校生活全般が充実していると聞く。ボランティア活動に参加して、地域の人たちと直接かわることの喜びを子供たちは感じてくれている。「卒業後は、世界へ羽ばたきいずれ故郷に恩返しするような人に育てほしい。」

## 「はばたき奨学金」2年度目の拡大

第一期(2017年3月～2018年3月)は、奨学生として新高校1年生22名に対して奨学金を給付しました。二年度目にあたる第二期(2018年3月～2019年3月)は、さらに支給対象・人数を拡大。新高校1年生19名に加え、新高校2・3年生19名も奨学生として決定しました。



奨学生のボランティア活動参加

### 奨学生代表のコメント

この度、魚沼・南魚沼基金第二期はばたき奨学金を支給していただくことになり、その荣誉に感激するとともに、身の引き締まる思いです。私は、4月から寮生活となります。親元を離れても健康管理に気を付けて小学校・中学校に引き続き、皆勤賞で卒業したいと考えています。皆様方のご期待を裏切ることのないよう、夢に向かって一生懸命学習に励みます。

## 基金の広がり

「先日妻を亡くしたのですが、妻のエンディングノートに、遺産の一部を魚沼の未来基金へ寄付してほしいと書いてありました。なので今日は妻の意志に従い、寄付金を持ってきました」

これは、信用組合の窓口にいちゃった男性のお言葉です。男性の奥様は、大病の末お亡くなりになったとのことでした。生前、新聞に掲載された当基金の記事を見て、ご夫婦には子どももいなかったため、地元でこういった取り組みがあるのであれば、自分の遺産の一部を使ってもらいたいとお話をされていたそうです。

このように、当基金の取り組みは、新潟県内外のメディアに取り上げられ、反響をいただきました。新潟にルーツを持つ方や、基金に賛同していただいた方々からも「寄付をしたい」というお声をいただきました。これまで組合員の方々からのみご寄付をいただいていたのですが、2017年度より一般の方々からの寄付も受け入れ、実際にご支援いただいています。

寄付金額 ……5,071,006円

寄付件数 ……178件

奨学金総額 ……第一期(2017年3月～2018年3月):2,112,000円

第二期(2018年3月～2019年3月):2,964,000円(予定)

応募者数 ……50名

奨学生数 ……第一期:22名

第二期:38名

豊かになったはずの日本に立ちはだかる女性の貧困問題は、非正規雇用やシングルマザー、親の介護などに起因し、負の連鎖が次の世代に及ぶことで将来の経済不安に繋がる深刻な社会リスクをはらんでいます。あい基金は、多様な場で働く女性や企業が立場を越えて協力する、日本初の女性のための基金です。「女性の経済的自立の実現」に着目し、取り組むNPOや社会的企業を、資金提供やマネジメント支援などを通じ応援していきます。



あい基金

女性が未来をつくる

## 支援者の見守る中で、助成団体を決定

東日本大震災の被災地において女性が中心となって取り組む、女性の生業の場づくりや地域づくりの活動を対象に、第二期助成事業の支援団体を決定しました。

助成審査会は、あい基金創設2周年イベントと同時開催し、支援者の見守る中での公開プレゼンテーションとなりました。寄付金が実際に団体の活動に結び付く過程を直に見届ける機会とし、また団体の悩みに参加者がアドバイスをする「知恵出しセッション」を行い、寄付者と団体とが交流する場となりました。

助成団体のみならず、あい基金とかわりのあった団体に対しては、あい基金の連携団体である一般社団法人Women Help Womenが定期的に訪問し、相談やアドバイスを行っています。



## 「相続・遺贈セミナー」を開催

本基金は、多くの女性が女性を支える、ユニークな基金です。女性への支援や、次世代への「恩送り」を考える際に、その寄付や遺贈の受け皿になることを目指し、活動しています。遺贈をお考えの方に向けて「相続・遺贈セミナー」を実施しました。親の世代のケア、自分自身の将来などを見据えつつ、人生の総決算となる寄付について、女性の関心は高く、「実行するにはどうすればいいの？」などの質問が多く寄せられました。毎回専門家を招き、テーマごとの講演を聞いた後に、話しやすい空気の中で講師に直接質問をしたり、アドバイスをいただきました。

- 第1回「相続のはなし」(2017年2月開催) 講師: 本郷順子氏(本郷税理士事務所/税理士)
- 第2回「遺言とは」(2017年4月開催) 講師: 中村雅男氏(弁護士法人中村総合法律事務所/弁護士)
- 第3回「成年後見人制度」(2017年6月開催) 講師: 高橋 弘氏(けやき野司法書士法人/司法書士)



寄付金額 ……465,281円

助成金額 ……1,500,000円 ※前年度以前受け入れ寄付分も含む

応募団体数 ……13団体

助成団体数 ……3団体

助成団体名と助成事業名

- インディゴ気仙沼  
「[パステル]の研究・開発事業」
- 一般社団法人ウィメンズアイ(継続)  
「パン・菓子工房oui(ウィ)プロジェクト」
- 株式会社WATALIS(継続)  
「WATALISキモノアートプロジェクト」



一般社団法人ウィメンズアイではパン・菓子工房ouiをオープンさせました。

### 助成先団体のコメント

インディゴ気仙沼 代表  
藤村 さやか様



女性の働き方の選択肢が少ない地方都市の宮城県気仙沼市において、子育て中の女性が少ない時間を持ち寄り、柔軟に働ける藍染工房を運営しています。既存事業に加え、一昨年から世界的にも珍しい藍草「パステル」の栽培を始めました。来年いよいよ、新しい染料で仕上げた商品をお目見えできそうです。女性支援のみならず、遊休耕作地の活用や地元農家の雇用など、多面的に地域に必要なとされる働き場になっていきたいです。

株式会社大和証券グループ本社の持続可能な社会の実現に向けて貢献する活動の一環として、貧困状況にある子どもの環境改善や貧困の連鎖を防止することを目的に創設されました。子どもの人生への意欲を育み将来の貧困リスクを低減する先駆的な事業が、効果的で継続的なものになるための事業開発を支援し、子どもの貧困対策におけるイノベーションを応援します。

**基金創設者のコメント**

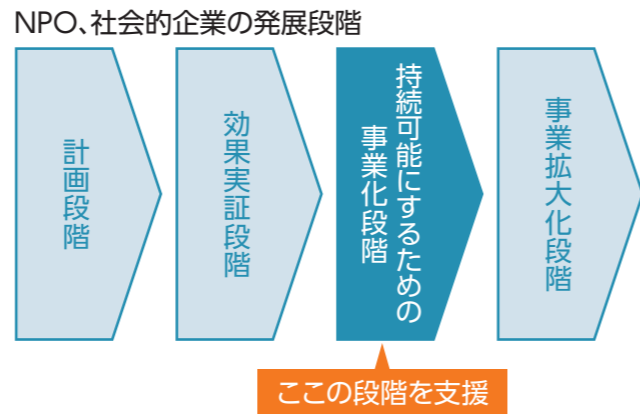
株式会社大和証券グループ本社 執行役社長  
**中田 誠司**様



子どもの貧困問題の深刻化には大変心を痛めています。子どもたちの将来は日本の将来であり、この問題は日本社会の喫緊の課題です。私たち証券会社は資本主義の恩恵を受けているからこそ、この問題に取り組むべきだと思います。本基金を通じ、この問題に取り組む皆様を支援することで、解決の一助となることを目指しています。全ての子どもが明るい未来を描けるよう、パブリックリソース財団とこの取り組みを続けていきたいと考えています。

**貧困の連鎖を断ち切る、  
 イノベティブな事業開発を応援**

当基金は、子どもを支援する新しく挑戦的な仕組みを、さらに受益者を増やすことができるよう、持続可能な事業モデルとなるまでの開発段階を支援する、ユニークな助成事業です。助成金の給付される3年間の間に、事業性やインパクト拡大のための仕組みづくりを行い、自律できるように支援を行います。本年度は、これまで個別団体が持っていたノウハウを、違う支援の仕組みに再構築したり、他団体に普及させる取り組みや、インパクト拡大に向けた新しいツールの開発・実装などの事業が採択されました。



NPO法人SOS子供の村JAPAN  
 里親について知ってもらう「里親って?カフェ」



NPO法人PIECES  
 助成プログラムについて行政関係者へヒアリング



NPO法人Learning for All  
 大学生教師による子どもたちへの学習支援

寄付金額 ..... 11,439,160円  
 助成金額 ..... 9,000,000円  
 応募団体数 ..... 104団体  
 助成団体数 ..... 3団体  
**助成団体名と助成事業名**

- NPO法人SOS子どもの村JAPAN 「『家族の未来応援プロジェクト』の事業開発」
- NPO法人PIECES 「『孤立した子どもに対する地域のアウトリーチ人材育成プログラム』の事業開発」
- NPO法人Learning for All 「『学習支援ナレッジ展開』の事業開発」

キヤノンマーケティングジャパン株式会社(以下、キヤノンMJ)より、使用済みカートリッジ回収数やコピー用紙販売数に応じたご寄付をいただいで運営しています。キヤノングループ、弊財団、日本自然保護協会が協力して、生物多様性保全の活動を行う団体を支援し、広く市民に向けた啓発に取り組んでいます。

**基金創設者のコメント**

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 CSR本部  
**石阪 盛康**様



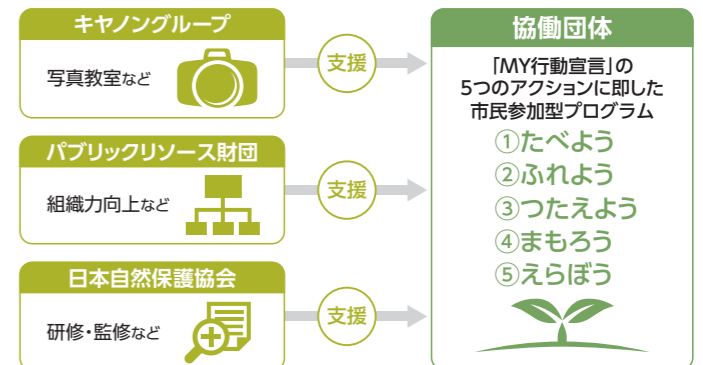
本基金に対して毎年多くの団体様より公募にお申込みいただいでいること、そして一眼レフカメラ写真教室の開催も含め、全国各地において生物多様性にまつわる多種多様な優れた活動に関わらせていただいでいることを大変光栄に思います。引き続きパブリックリソース財団様、日本自然保護協会様のご協力を仰ぎながら協働団体に対して弊社ならではの支援を行い、生物多様性の啓発・保全に貢献出来るように尽力してまいります。

2017年度は、**10回の写真教室の実施、60の市民参加型プログラム**に合計**1,927名**が参加しました。



「第6回 いきものにぎわい企業活動コンテスト」において最高賞である「環境大臣賞」を受賞

**未来につなぐふるさとプロジェクトの概要**



各団体の活動の様子は、キヤノンMJの「未来につなぐふるさとプロジェクト」に掲載されています。  
<http://cweb.canon.jp/csr/furusato/>

寄付金額 ..... 13,618,366円  
 助成金額 ..... 5,000,000円  
 応募団体数 ..... 21団体  
 助成団体数 ..... 10団体 (新規団体: 5団体、継続団体5団体)  
**助成団体名と助成事業名**

**【新規団体】**

- NPO法人もりねっと北海道(北海道)  
 「カメラで発見する身近な自然」
- NPO法人田んぼ(宮城県)  
 「田んぼの生物多様性と稲作文化を中心とした環境学習」
- NPO法人アサザ基金(茨城県)  
 「ピオトープ農法の普及と確立」
- NPO法人森のライフスタイル研究所(東京都)  
 「八王子市上川地区の里山と谷戸における生物多様性の回復をめざす市民参加型活動」
- NPO法人河北潟湖沼研究所(石川県)  
 「無農薬田んぼでの協働作業や生き物観察会」

**【継続団体】**

- NPO法人グラウンドワーク三島(静岡県)  
 「『水の都・三島』の原風景・原体験を未来につなごう! 源兵衛川・松毛川「ふるさとの川と森」づくり」
- NPO法人棚田LOVER's(兵庫県)  
 「『みんなで守ろういのちの棚田!』食べて、感じて、未来の子どもたちに棚田をつなごう! 大切さを伝えよう!」
- 真庭遺産研究会(岡山県)  
 「子ども生きもの博士(自然体験学習)事業による特別天然記念物オオサンショウウオの保護と生息環境保全」
- NPO法人西中国山地自然史研究会(広島県)  
 「芸北の森・里で遊んで学ぶ〜いのちと暮らしに触れるツアー〜」
- NPO法人おおい環境保全フォーラム(大分県)  
 「ウミガメの生態調査を通じた環境保全・環境学習活動」

10団体に対して、組織力向上のための支援を行いました。支援テーマ: 組織診断、ファンドレイジング、広報、ロジックモデル、マーケティング、コミュニケーション、プログラム企画、生物多様性の知識を深める

# 「手ごたえのある寄付」を実現するために

## 日本初の「寄付適格性評価」の開発

2017年度、弊財団では、ご寄付を1円も無駄にすることなく効果的に活かせる団体を寄付者や社会的投資家にご紹介するために、「寄付適格性」の評価を開発・開始しました。「寄付適格性」の評価は、これまで評価の視点として重視してきた、「ミッション・ビジョン」「対象者のニーズへの対応」「目標の達成度」に加え、組織が対象者のニーズを的確に把握しているか、どのような変化をもたらすかが明確になっているか(セオリーオブチェンジ)、それに照らし合わせて成果評価を行っているか、環境変化に対応してプログラムを変化させているか、失敗から学んで改善を行う組織であるか、などの新たな視点を加えています。

### 専門家のコメント

認定NPO法人 日本ファンドレイジング協会  
事務局長  
鴨崎 貴泰様



「どの団体へ寄付すればいいのか知りたい」という寄付者のニーズを満たす寄付適格性評価は日本では前例のない大変意義深い取り組みです。特に組織の財政やガバナンスなどのこれまでの組織評価の観点に加えて社会的インパクト評価の観点を入れている点が画期的です。寄付適格性評価が社会に広く浸透し、活用されることで日本の寄付や社会的投資市場拡大に寄与することが期待されます。

### 寄付適格性評価実施団体

※評価結果および格付けはValueMakerにて掲載しています

- 一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会
- NPO法人キッズドア
- NPO法人持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会
- 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン
- 一般社団法人天然住宅
- NPO法人ふるさとのか
- NPO法人ホームスタート・ジャパン
- 認定NPO法人マドレボニータ

### 寄付適格性評価の枠組み

		4つの領域	
2つの視点	社会的インパクトを出せる組織であるか	目的	インパクトの実践
	組織の信頼性	人	財政と運営

### 重視する視点

- 受益者のニーズ
- 成果を出す戦略
- 変化を受け入れる
- 失敗から学ぶ
- スタッフや関係者のやる気を引き出す
- 財務・マネジメントがしっかりしている

### <NPCのフレームワークを採用>

寄付適格性評価のための新たな視点を加えるにあたっては、既存のさまざまな評価システムやフレームワークのリサーチを行い、イギリスのシンクタンクであるNew Philanthropy Capitalが開発したフレームワークを採用しています。日本のNPOや社会的企業の水準に合わせて再構築を行いました。取りまなければならない社会的課題に対して、効果的な事業を行う組織であるか(社会的インパクト)、寄付を確実に活かす組織であるか(信頼性)、という2つの視点と、4つの領域(「目的」、「インパクトの実践」、「人」、「財政と運営」)で組織分析を行います。

## 寄付者参加型・寄付適格性格付けサイト「ValueMaker」を新設

今、日本社会が直面している重要な社会課題と、その解決に効果的に取り組む組織を「寄付適格性評価」をもとにした「格付け情報」とともに紹介する、寄付者参加型サイト「ValueMaker(バリューメーカー)」をオープンしました。

ValueMakerは、過疎化の進む地域でそれでも自分らしく生きられる社会や、貧困にあえぐことなく自己実現のできる社会など、「誰も置き去りにしない持続可能な社会」を作ることを目指しています。分断の社会といわれる現代において、様々な立場のマイノリティが存在しています。そのマイノリティから社会を変革していくため、様々な意見を取り入れつつ、ValueMakerでは5つの社会課題を提示し、効果的なアプローチをとる団体を掲載。寄付をはじめとしたいろいろな参画方法を用意しています。2018年度から本格的に稼働していきますので、ぜひご活用ください。



### ValueMakerの特徴

- 重要な社会的な課題を取り上げる
- 課題解決に効果的に取り組む組織を評価・格付け情報と共に紹介
- 効果を生み出すプロセスがわかる
- 寄付だけでなく多様な参画の機会を提供

### ValueMakerが提示する社会課題

- 子育て支援 ● 教育支援
- 地域資源を活用した雇用創出
- 共生型地域社会 ● 労働問題

## 社会的インパクトの測定:日本初!SROIレポートが認証(Assurance)を取得

弊財団では、寄付の効果を最大限に高め、手ごたえのある寄付を実現するために、寄付や助成によって行われたプログラムの社会的インパクトの測定に取り組んでいます。2017年度はSROIの手法を活用して、NPOの組織基盤強化を支援する助成プログラムであるPanasonic NPOサポートファンドのインパクト評価を行い、そのレポートが日本で初めてSocial Value Internationalの認証を受けました。

### 支援者のコメント

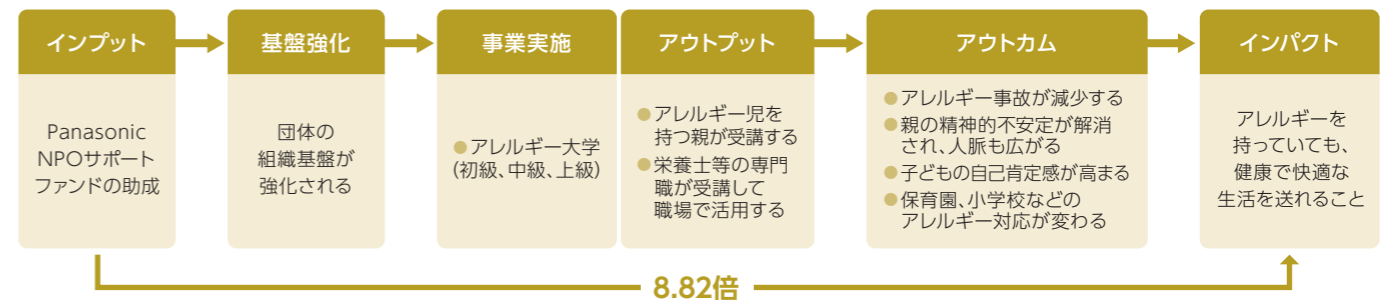
パナソニック ブランドコミュニケーション本部 CSR・社会文化部 主幹  
東郷 琴子様



本ファンドを通じて「組織運営上の課題が解決し、主要事業のアウトカム、インパクトが改善・向上した」という従来から実施していた助成先への事業評価結果に、より客観性を持たせたかったことと、組織基盤強化助成の有効性を表すためにSROI評価に取り組みました。そしてそのプロセスや評価結果の妥当性について国際機関から認証を得たことで、組織基盤強化の有効性を客観的に示すことができました。SROI評価やアシュアランスの申請の過程で多くの気づきがあり、プログラムの改善につながっていることも成果の一つです。

インパクト評価は、サポートファンドの助成先の一つであるNPO法人アレルギー支援ネットワークを対象に行いました。特に今回は、組織基盤強化の社会的インパクトを測定するために、従来のSROIに加えて、組織に対するインパクトを測るプロセスを追加するという新たなアプローチを取りました。

### アレルギー支援ネットワークへの組織基盤強化支援の社会的インパクトは、投入額の8.82倍に



### SROI認証取得の意義

SROIとは、事業への投資価値を、金銭的価値だけでなく、その社会的価値をより広い価値の概念に基づき計量的に評価するためのフレームワークです。Social Value Internationalは、SROIの認証(Assurance)を出す唯一の組織で、今回その認証を得たことは、次のような意義があります。

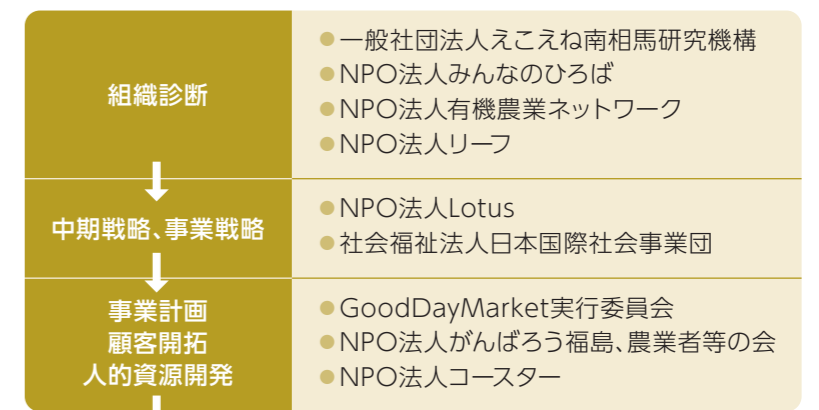
- SROIを組織基盤強化の社会的インパクト評価の手法として活用できることがわかったこと
- 「アレルギー支援ネットワークへの組織基盤強化支援の社会的インパクトは、投入額の8.82倍」という評価の適切性と透明性を、国際水準に照らし合わせて確保することができたこと

## 組織基盤強化支援

組織の基盤を強化することで、継続的な組織運営を可能にするとともに、社会的なインパクトの拡大が可能になります。2017年度は、様々な専門家と連携することで、9団体のコンサルティングを行い、各団体の組織基盤強化を支援しました。

### 【ご協力いただいた専門家・専門組織のみなさま】

NPO法人杜の伝言板ゆるる様、一般社団法人オープンデータラボ様、オフィスBeni様、合同会社志事創業社様、株式会社スイロ様、株式会社ネクサス様、モジョコンサルティング合同会社様



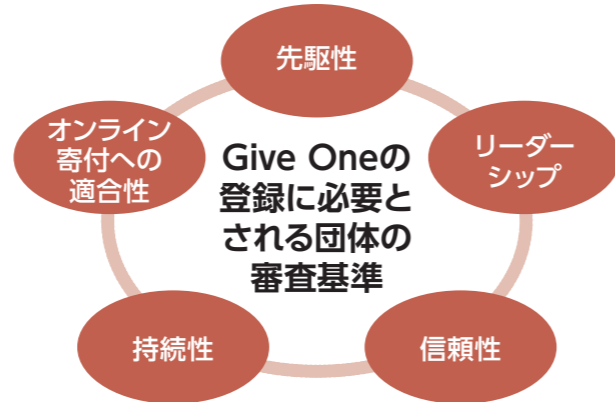
継続的な運営、インパクト拡大へ

# あなたの関心と身近な行動から支援を

## 日本で最初のオンライン寄付サイト「Give One (ギブワン)」

収入の1%を寄付しよう、という思いを名前に込めたオンライン寄付サイトGive One (ギブワン)。初めての方でも手軽に、気軽に、1,000円からご寄付いただけます。

環境、こども、まちづくり、災害復興など多くのテーマ、地域のプロジェクトを網羅することで、ユーザーに今の社会課題に触れていただき、共感するNPOへの寄付を通じて社会貢献に参加できる機会を提供しています。

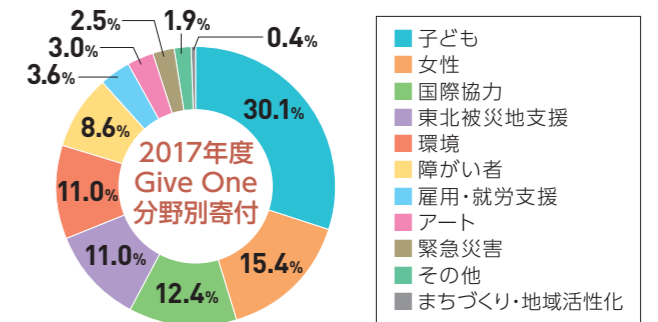


### Give One登録団体一覧

**【環境】** 知床自然大学院大学設立財団、石西礁湖サンゴ礁基金、樹木・環境ネットワーク協会、エバーラスティングネイチャー、トラ・ゾウ保護基金、キープ協会、アイサーチ・ジャパン、サンクチュアリ エヌピーオー、霧多布湿原ナショナルトラスト、白神山地を守る会、日本ウミガメ協議会、アサザ基金、共存の森ネットワーク、緑と水の連絡会議、緑の地球ネットワーク、メコン・ウォッチ、グローバル・ヴィレッジ、グリーンアライアンス、日本クマネットワーク、JUON (樹恩) NETWORK、アースウォッチ・ジャパン、大雪山自然学校、more trees **【国際協力】** アイキャン、シャプラニール、難民を助ける会、ピース ウィンズ・ジャパン、アムダ (AMDA)、アジア・アフリカと共に歩む会、ハンガー・フリー・ワールド、日本国際ボランティアセンター (JVC)、ケア・インターナショナルジャパン、ジャパン・プラットフォーム、民際センター、地球の友と歩む会、タンザニア・ボレボクラブ、パレスチナ子どものキャンペーン、日本国際民間協力会 (NICCO)、CODE 海外災害援助市民センター、WE 21 ジャパン、チャイルド・ファンド・ジャパン、21世紀協会、ワールドキッズコミュニティ、インド福祉村協会、ブリッジ エーシア ジャパン、グッドネーバーズ・ジャパン、JHP・学校をつくる会、カパティラン、シャンティ国際ボランティア会、国際医療技術財団、地雷廃絶日本キャンペーン、e-Education、ウォーターエイドジャパン、ジャパンハート、日本地雷処理を支援する会 (JMAS)、ムラのミライ、アジア協会アジア友の会、ACE、エイズ孤児支援NGO・PLAS **【持続可能な社会】** ナマケモノ倶楽部、きょうとグリーンファンド、トージバ、気候ネットワーク、野生生物保全論研究会、A SEED JAPAN、FoE Japan、環境文明二十一、あおぞら財団、伊万里はちがめプラン、ESDJ **【障がい者支援】** 日本フィランソピクス協会、ぱれっと、めぐはうす地域生活支援センターMOTA、DPI日本会議、トゥギャザー、ゆるら、日本点字図書館、スペシャルオリンピックス日本、こころ塾、長野サマライズ・センター、サイエンス・アクセシビリティ・ネット、インフォメーションギャップバスター、響愛学園、バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター **【患者支援】** 病気の子ども支援ネット遊びのボランティア、日本クリニック協会、マギーズ東京、スマイリングホスピタルジャパン、難病の子どもとその家族へ夢を **【女性】** 女性の安全と健康のための支援教育センター、働く女性の全国センター (ACW2)、しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 **【暴力】** 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ、全国女性シェルターネット、レイブクライシスセンターTSUBOMI **【ホームレス支援】** 新宿連絡会、ビッグイシュー基金、自立支援センターふるさとの会 **【HIV・エイズ】** HIVと人権・情報センター **【科学】** 高木仁三郎市民科学基金、ロボカップ日本委員会 **【児童養護施設】** ブリッジフォースマイル **【子どもの虐待】** 子どもの虐待防止センター、子どもの虐待防止ネットワーク・あいち、児童虐待防止協会、CAPセンター・JAPAN **【子どもシェルター】** 子どもセンター「パオ」、子どもシェルターモモ、子どもセンターぽると **【子ども】** 東京シュレ、東京YMCA “liby (リビー) ”、青少年育成支援フォーラム、楠の木学園、エッジ、リソースセンターone、アトピックス地球の子ネットワーク、アレルギー支援ネットワーク、リヴォルヴ学校教育研究所、箕面こどもの森学園、e-MADO病気のこどもの総合ケアネット、SOS子どもの村JAPAN、こどもコミュニティケア、東京YMCA、ビーンズふくしま、遠野まごころネット、チャンス・フォー・チルドレン、日本IDDMネットワーク、越谷らご、チャイルドラインあいち、チャイルド・リソース・センター、いるかねっと、Learning for All **【子育て】** フローレンス **【貧困家庭】** フードバンク関西、キッズドア、フードバンク山梨 **【定住外国人支援】** 神戸定住外国人支援センター (KFC)、多言語社会リソースかながわ **【社会教育】** 芸術と遊び創造協会、日本おもちゃ病院協会、おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ、Hands On Tokyo、ETIC. (エティック) **【人権】** アムネスティ・インターナショナル日本 **【コミュニティファンド】** みのお山麓保全ファンド **【NPO支援】** 新潟NPO協会 **【就労支援】** 彩結び **【市民活動】** ネットワーク・市民アーカイブ **【東日本大震災】** いわき放射能市民測定室「たちね」、輝くなかまチャレンジド、住民互助福祉団体 ささえ愛山元、創る村、なごみ、ネットワークオレンジ、のんぴ〜りすみちゃんの家、グリーンケア&ピアサポート 福島れんげの会、ふよう土2100、みやぎ身体障害者サポートクラブ **【自殺防止】** 仙台いのちの電話、東京自殺防止センター **【芸術】** 芸術家と子どもたち、エイブル・アート・ジャパン **【まちづくり】** 金澤町家研究会、まちぽっと、尾道空き家再生プロジェクト、あおもりNPOサポートセンター、ぐらすかわさき、ReRoots

## 子どもの貧困問題に多くのご寄付をつなぎました

日本における子どもの貧困問題が注目され、子どもの7人に1人が貧困状態にあることが社会問題化しています。Give Oneでも2017年は、貧困家庭の子どもたちに学習支援を行う「Learning for All」や「キッズドア」、貧困世帯に食料などを届けている「フードバンク山梨」や、「フードバンク関西」、虐待などで家庭に戻れない子どもを支援する「子どもシェルターモモ」など、子ども分野の団体に多くのご寄付をいただきました。



## 寄付のポータルサイトとしての役割

ドメスティックバイオレンス (DV) の被害者支援に取り組む団体は、被害者をさらなる暴力から守るために住所や連絡先を伏せるなど、情報発信に制約があります。Give Oneがご寄付の呼びかけや受け付けをするなど、寄付の窓口になっています。2017年度は、「全国女性シェルターネット」や「ウィメンズネットこうべ」などにあわせて200万円以上のご寄付をつなぎました。

寄付金額	…… 24,848,410円
助成金額	…… 21,386,327円
寄付件数	…… 5,179件
助成実績	…… 132団体 250プロジェクト

### 登録団体のコメント

NPO法人全国女性シェルターネット 理事  
近藤 恵子様



私たちは、DV・性暴力被害女性や子どもたちの命を支える支援現場でパブリックリソースセンター (現:パブリックリソース財団) と出会い、Give One (ギブワン) 発足当初から継続的なご支援をいただいております。シェルターサポートを柱とする暴力根絶・支援活動を展開しつつ、最近ではDV・性暴力被害影響下にある子どもたちの回復支援プログラムの実践拡充に力を注いでいます。

## 身近なことからできる多様な寄付のしくみ

### 自動販売機の飲み物1本買うごとに2円が寄付になる「ゆび募金」

寄付つき飲料自動販売機の設置を進めている認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会と連携し、飲み物の売り上げから福島、宮城、岩手の子どもたちが自らの力で未来を切り開いていけるような活動を行う団体に、助成を行いました。ゆび募金は、自動販売機設置場所の提供者と飲料メーカーがそれぞれ、飲料1本の販売につき1円ずつの寄付を拠出します。購入者は、自動販売機に表記されている支援先を知って購入することができる仕組みです。

#### ● 東北3.11基金

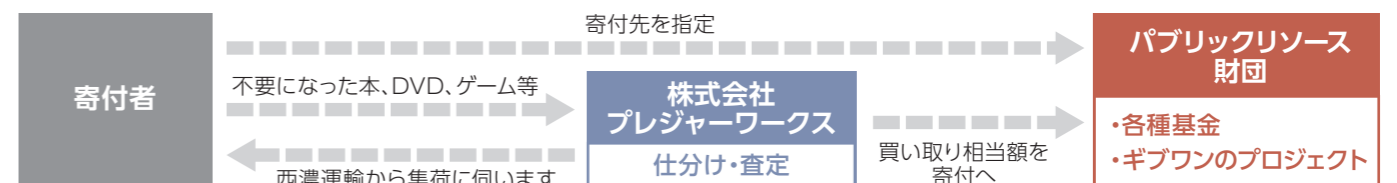
寄付金額 …… 1,751,922円  
助成金額 …… 754,000円  
応募団体数 …… 15団体  
助成団体数 …… 2団体

#### 助成団体名と助成事業名

- 一般社団法人ワタママスマイル  
「『地域子ども食堂』による子どもの居場所づくりと学習支援事業」
- NPO法人奏海の社  
「みんなで作る『にこま〜る。』～表現するよこびを生きる意欲につなげる場づくり」

## 断捨離と寄付が同時にできる! 「BOOK募金」

不要になった本やゲームの買い取り額を寄付できる「BOOK募金」。株式会社プレジャーワークスを利用して本、DVD、ゲームなどを売った寄付者の方々から当財団を寄付先として指定いただき、2017年度は7,595円のご寄付をいただきました。





# Special Thanks (敬称略)

## 賛助会員および財団運営基金へのご寄付

- 赤羽根 日出夫
- 雨森 孝悦
- 磯 ちず子
- 磯谷 千代美
- 浦田 泉
- 蛸名 喜代作
- 岡田 州代
- 岡田 恵子
- 河合 充子
- 菊池 信太郎
- 株式会社QUICK
- 熊木 由次
- 小樽 雅章
- 有限会社サテライト・オフィス
- 佐藤 信行
- 公益財団法人助成財団センター
- 鈴木 秀行
- 鈴木 政孝
- 関 和実
- 高野 光世
- 田口 治
- 田中 義博
- 津田 順子
- 寺尾 仁
- 土肥 寿員
- 中井 敏郎
- 長野女性コーラス
- 野澤 タキ子
- 原田 智明
- 深澤 由美子
- 福岡 浩彦
- 一般財団法人ふくしま未来研究会
- 藤井 幸子
- 株式会社プレジャーワークス
- 牧野 洋子
- 山岸 敬
- 山岸 弘志

他 匿名6名

## あい基金へのご寄付

- 浅野 幸子
- 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本
- 石川 房子
- 磯 ちず子
- 太田 達男
- 岡田 州代
- 岡田 恵子
- 金谷 千慧子
- 神谷 和枝
- 河合 充子
- 岸本 幸子
- 木山 啓子
- 清宮 美稚子
- 公益財団法人国際医療技術財団
- 小園 直樹
- 認定NPO法人国境なき医師団日本
- 斉藤 学様
- 認定NPO法人 ジャパン・プラットフォーム
- 申 弘美
- 公益財団法人世界こども財団
- 高橋 亜衣子
- 竹沢 えり子
- 田島 千里
- 津田 順子
- 長浜 靖子
- 西田 治子
- 早坂 毅
- 原田 桂子
- 日野 敏孝
- 福江 敬太郎
- 藤井 幸子
- 藤井 純一
- 藤井 浩美
- 認定NPO法人フローレンス
- 星田 寛
- 堀 久美子
- 牧野 洋子

他 匿名1名

## I.H.K基金へのご寄付

- 匿名1名
- 岡田 恵子
- 加藤 あや
- 株式会社クオカード
- 速水 洋志
- 茂木 義三郎
- 他 匿名1名

## アート&ヘルス基金へのご寄付

## 魚沼の未来基金へのご寄付

- 安達 辰也
- 阿部 秀明
- 阿部 勝
- 阿部 康雄
- 阿部 保幸
- 井口 晴一
- 井口 伸夫
- 池田 健一
- 飯酒盃 敏
- 石坂 幸子
- 石田 眞一
- 石田 大
- 石田 睦
- 有限会社石田電機商会
- 石原 友三郎
- 今井 満
- 上村 誉
- 株式会社魚沼さく泉
- 有限会社魚沼ロード・サービス
- 内田 幹夫
- 内山 一秀
- 内山 信裕
- 内山 浩
- 株式会社エフエム雪国
- 遠藤 憲子
- 遠藤 実
- 大口 康幸
- 大熊 達義
- 大島 知美
- 大平 春子
- 大竹 一夫
- 大津 潔
- 大塚 常作
- 大塚 秀夫
- 大桃 久子
- 岡村 聡
- 小川 一夫
- 奥村 邦夫
- 小倉 敏夫
- 小野澤 一成
- 小野塚 徹
- 貝瀬 一恵
- 貝瀬 哲男
- 貝瀬 英昭
- 籠田 淑子
- 笠原 貴美男
- 笠原 敏博
- 風間 健
- 風巻 良夫
- 片山 茂
- 学校法人金城学園
- 幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園
- 上村 一也
- 上村 迅
- 上村 忠義
- 上村 弘之
- 上村建設工業株式会社
- 川内 正
- 川島 ヤイ
- 川邊 哲夫
- 岸野 悦雄
- 木村 盛
- 桐生 厚義
- 桐生 好雄
- 桑原 信一
- 桑原 正
- 桑原 保夫
- 小出 健治
- 小出郷信栄会
- 有限会社小出自動車工業
- 株式会社コイデン
- 合資会社みうらや
- 小杉 知明
- 粉川 英明
- 小林 克行
- 小林 博
- 有限会社小林電設
- 酒井 忠久
- 櫻井 厚子
- 櫻井 一枝
- 佐藤 節子
- 佐藤 千枝子
- 佐藤 正雄
- 佐藤 保志
- 佐野電設株式会社
- 塩川 恵美子
- 塩沢信用組合
- 島村 文男
- 清水 一夫
- 清水 良一
- 信和会
- 新和コンクリート工業株式会社
- 菅井建築所 菅井 英明
- 鈴木 清喜
- 鈴木 美穂
- 須藤 昇二
- 角谷 正雄
- 関 久良
- 瀬下 賢一
- 有限会社ソワン
- 有限会社大栄食品
- 有限会社大地
- 高野 好雄
- 高橋 郁夫
- 高橋 イツ
- 高橋 一己
- 高橋 清隆
- 高橋 久子
- 高橋 ひろみ
- 高橋 守
- 株式会社高橋工務所
- 滝沢 完治
- 株式会社タキノガワ
- 武淵 和昭
- 橋 武
- 田村 正治
- 月岡 奈津子
- 津南デンタルクリニック
- 津端 保
- 戸田 康晴
- 富所 清治
- 外谷 光雄
- 中澤 幸子
- 中澤 由美
- 中澤 好夫
- 中嶋 京子
- 中嶋 成夫
- 中嶋 知一
- 中島 仁
- 長屋 昇
- 南雲 一成
- 有限会社新潟大成
- 西澤 良二
- 西野 敬太郎
- 農事組合法人グリーンアース津南
- 羽賀 謙祐
- 株式会社羽吹組
- 林 茂一
- 林 澄子
- 林 秀夫
- 株式会社ハリカ六日町
- 株式会社光成電気
- 平賀 孝雄
- 福原 ヒロ子
- 福原 政文
- 藤ノ木 靖子
- 有限会社 フジミヤ
- 星 宗兵
- 星 伸哉
- 星野 富夫
- 有限会社丸高
- 水澤 行雄
- 三友 泰彦
- 皆川 賢太郎
- 株式会社みやま
- 村山 和彦
- 村山 桂子
- 村山 社
- 八木 健二
- 山岸 君江
- 山岸 政司
- 山崎 四郎
- 山田 武雄
- 山田 正春
- 山田 みつ枝
- 山田 泰
- 山田 芳男
- 山本 金一
- 株式会社吉田建設
- 涌井 好一
- 涌井 フサイ
- 渡辺 みさ子
- 割田 賢一
- 募金箱にご寄付を いただいた皆様

他 匿名6名

## エイブルアート年賀状基金へのご寄付

- 株式会社プリプレス・センター

## AED・健康スポーツ基金へのご寄付

- 株式会社クオカード
- 他匿名1名

## AED・地域あんしん基金へのご寄付

- キャンノンマーケティングジャパン株式会社
- ジョーンズ ラング ラサール株式会社
- 茂木 義三郎

## Give One登録団体を指定したご寄付

- のべ5,179人のオンライン寄付の皆様
- 株式会社クオカード
- azbilみつばち倶楽部
- 他匿名1名

## 教育基金へのご寄付

- 杉山 慎
- 遠藤 幸彦
- 竹沢 えり子
- 他匿名2名

## Good Job! 基金へのご寄付

- 井上 良一

## ゴールドマン・サックス基金へのご寄付

- ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
- ゴールドマン・サックス証券株式会社

## 純 子ども基金へのご寄付

- 國田 純

## 高山基金へのご寄付

- 高山 弘子

## 大和証券グループ 輝く未来へ こども応援基金へのご寄付

- 株式会社大和証券グループ本社

## 東北3.11基金へのご寄付

- 認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会

## ふくしま未来基金へのご寄付

- 浅野 幸子
- 岡田 恵子
- 中村 敏彦

## 未来につなぐふるさと基金へのご寄付

- 南 ちえ
- キャンノンマーケティングジャパン株式会社
- キャンノンシステムアンドサポート株式会社

## ゆーじチャレンジ基金へのご寄付

- 伊藤 裕司

## 委託元／協賛／協力

- アズビル株式会社
- 株式会社内田洋行
- 国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) 社会技術研究開発センター (RISTEX)
- クラブツーリズム株式会社
- 埼玉県 県民生活部共助社会づくり課
- 株式会社時事通信社
- 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
- ダウ・ケミカル日本株式会社
- ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク
- 株式会社東邦銀行
- パナソニック株式会社
- フィッシュ・ファミリー財団
- 株式会社ロフトワーク

## 助成・顕彰事業選考委員

※ご所属・お役職は 委嘱当時のものです

- 赤石 千衣子 (NPO法人しんぐるまざあず・フォーラム理事長)
- 秋葉 武 (立命館大学産業社会学部教授)
- 浅野 幸子 (減災と男女共同参画研究推進センター共同代表、早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員)
- 厚子・東光・フィッシュ (フィッシュ・ファミリー財団共同創設者・理事)
- 雨森 孝悦 (日本福祉大学教授)
- 伊藤 隆 (世界文化フォーラムアライアンス日本幹事)
- 市瀬 敬子 (NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会理事)
- 井上 英之 (一般社団法人INNO-Lab International共同代表)
- 大森 智恵子 (NPO法人子ども劇場千葉県センター理事)
- 岡本 拓也 (ソーシャルマネジメント合同会社代表、NPO法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京理事)

- 小河 光治 (公益財団法人あすのば代表理事)
- 小野澤 一成 (塩沢信用組合理事長)
- 小野田 全宏 (静岡県ボランティア協会市民活動センター理事長)
- 木山 啓子 (NPO法人ジェン (JEN) 共同代表理事)
- 黒田 かをり (一般財団法人CSO ネットワーク常務理事)
- 小園 弥生 (横浜市男女共同参画センター横浜南管理事業課長)
- 酒井 香世子 (損保ジャパン日本興亜株式会社人事部特命部長)
- 桜井 陽子 (NPO法人全国女性会館協議会顧問)
- 佐藤 雅一 (魚沼市長)
- 鈴木 浩 (福島大学名誉教授)
- 瀬戸 真一 (株式会社大和証券グループ本社広報部長)
- 鷹野 秀征 (一般社団法人新興事業創出機構 (JEBDA) 理事長、ソーシャルウィンドウ株式会社代表取締役)

- ダニエル・ベレル (ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク社長)
- 玉利 齊 (公益財団法人日本健康スポーツ連盟理事長)
- 中鉢 博之 (NPO法人ピーンズふくしま理事)
- 寺尾 仁 (新潟大学工学部建設学科准教授)
- 長澤 裕子 (株式会社吾妻高原ウインドファーム代表取締役)
- 西尾 元雄 (キャンノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR本部主席)
- 西田 治子 (一般社団法人Women Help Women代表理事、オフィス・フロネシス代表)
- 貫井 律 (キャンノンマーケティングジャパン株式会社CSR本部CSR推進部 部長)
- 萩原 なつ子 (立教大学社会学部・同大学院21世紀社会デザイン研究科教授、認定NPO法人日本NPOセンター副代表理事)

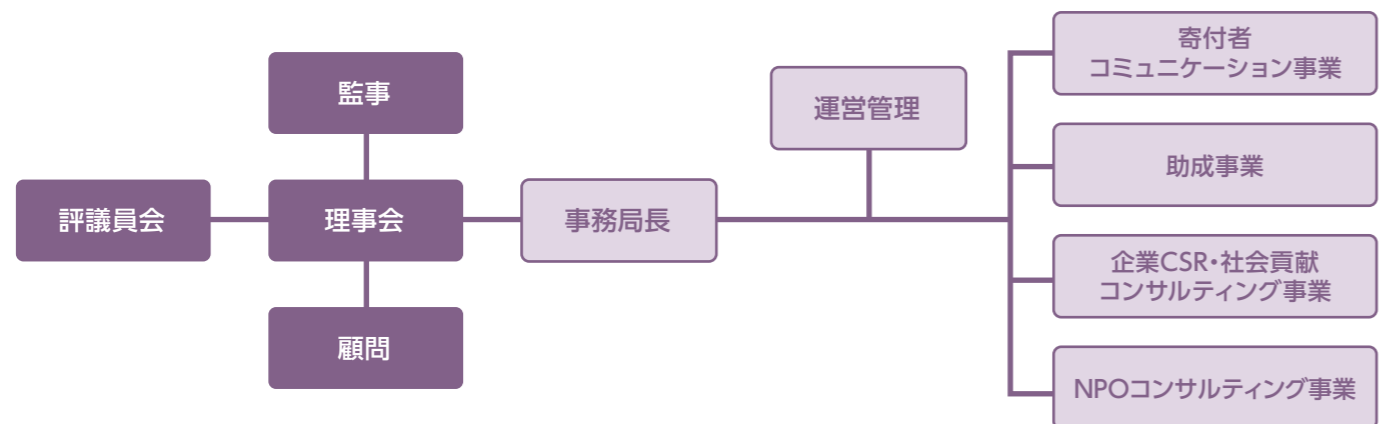
- 林 茂男 (南魚沼市長)
- 播磨 靖夫 (財団法人たんぼぼの家理事長、日本ボランティア学会副代表)
- 日詰 一幸 (静岡大学人文社会科学部部長)
- 福田 真由子 (公益財団法人日本自然保護協会生物多様性保全室)
- 紅邑 晶子 (オフィスBeni代表)
- 堀 久美子 (UBS証券株式会社コミュニティアフェアーズ&ダイバーシティ エグゼクティブディレクター)
- 横 ひさ恵 (NPO法人ニンジン常務理事)
- 山北 洋二 (あしなが育英会顧問)
- 山崎 富一 (NPO法人笑顔せたがや理事・事務局長)
- 古沢 広祐 (国学院大学大学院経済学研究科教授)
- 古瀬 繁範 (NPO法人地球と未来の環境基金理事長・事務局長)
- 龍治 玲奈 (日本マイクロソフト株式会社 法務政策企画統括本部渉外・社会貢献課長)

## 専門家・協力機関

- いずみ会計事務所
- オフィスBeni
- 一般社団法人オープンデータラボ
- けやき野司法書士法人
- 株式会社コトヴィア
- 株式会社シン・ファンド レイジングパートナーズ
- 合同会社志事創業社
- 株式会社スイロ
- 一般社団法人全国レガシーギフト協会
- 弁護士法人中村総合法律事務所
- NPO法人日本エコツーリズムセンター
- 公益財団法人日本健康スポーツ連盟
- 公益財団法人日本自然保護協会
- 認定NPO法人日本ファンドレイジング協会
- 株式会社ネクサス
- 一般社団法人ふくしま連携復興センター
- 株式会社プレジャーワークス
- ほがらから信託株式会社
- 本郷税理士事務所
- NPO法人杜の伝言板ゆるる
- ランドマーク税理士法人
- NPO法人CRファクトリー
- 一般社団法人CSRレビューフォーラム
- 株式会社PubliCo
- 一般社団法人RCF
- 株式会社STYZ
- 一般社団法人Women Help Women

# 組織体制 (2018年7月1日現在)

理事	久住 剛 ……公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・理事長
	岸本 幸子 ……公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・専務理事
	角方 正幸 ……株式会社大学改革 代表取締役社長
	鷹野 秀征 ……ソーシャルウィンドウ株式会社代表取締役、一般社団法人新興事業創出機構 (JEBDA) 理事長
	土肥 寿員 ……公益財団法人交通遺児育英会 常務理事・事務局長
	西田 治子 ……一般社団法人Women Help Women 代表理事、オフィス・フロンセス代表
評議員	秋葉 武 ……立命館大学産業社会学部 教授
	雨森 孝悦 ……日本福祉大学 福祉経営学部 教授
	勝又 英子 ……公益財団法人日本国際交流センター (JCIE) 専務理事・事務局長
	中村 陽一 ……立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授
	榎 ひさ恵 ……特定非営利活動法人ニンジン 常務理事
	山崎 富一 ……特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長
	湯瀬 秀行 ……公益財団法人助成財団センター 事務局長代理
監事	跡田 直澄 ……嘉悦大学 副学長、大阪大学大学院 医学系研究科 特任教授
	富岡 順一 ……公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 理事
顧問	播磨 靖夫 ……一般財団法人たんぼぼの家 理事長
スタッフ <small>常勤:6名 非常勤:5名</small>	田口 由紀絵 ……事務局長
	渡辺 裕 ……プログラムオフィサー
	新井 利延 ……プログラムオフィサー
	藤本 貴子 ……プログラムオフィサー
	阿部 榮美子 ……経理担当
	関 和実 ……総務担当
	原田 桂子 ……総務担当
	松下 一代 ……総務担当
	由良 聡 ……法務・コンプライアンス担当
	河合 哲朗 ……シニアフェロー
	赤池 洋二 ……シニアフェロー



# 決算報告

## 正味財産増減計算書 【2017年4月1日から2018年3月31日まで】 (単位:千円)

		2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度		
一般正味財産増減の部	1. 経常収益	事業収益 受取補助金等 寄付金収益 その他収益 合計	18,420 0 124,848 790 144,059	23,389 200 98,839 1,025 123,454	13,810 0 88,811 1,218 103,839	16,297 0 109,925 748 126,970	25,866 1,487 76,008 77 103,438	
	2. 経常費用	事業費 (うち助成金) 管理費 合計	147,120 (73,951) 4,172 151,292	117,949 (65,082) 5,337 123,287	105,083 (64,587) 4,817 109,899	106,690 (88,710) 16,469 123,159	88,695 (75,387) 6,740 95,435	
	当期経常増減額		▲ 7,233	167	▲ 6,060	3,811	8,003	
	当期経常外増減額		0	▲ 23	0	0	0	
	当期一般正味財産増減額		▲ 7,233	143	▲ 6,060	3,811	8,003	
	一般正味財産期首残高		7,439	7,295	13,356	9,545	1,542	
	一般正味財産期末残高		206	7,439	7,296	13,356	9,545	
	増減の部	指定正味財産	受取指定助成金 受取指定寄付金 一般正味財産への振替額 当期指定正味財産増減額 指定正味財産期首残高 指定正味財産期末残高	0 133,374 ▲ 124,848 8,526 287,245 295,772	▲ 1,000 58,246 ▲ 98,839 ▲ 41,592 328,838 287,245	0 158,142 ▲ 88,811 69,331 259,507 328,838	1,000 363,885 ▲ 109,925 254,960 4,547 259,507	0 48,769 ▲ 75,841 ▲ 27,072 31,620 4,547
		正味財産期末残高		295,978	294,685	336,134	272,863	14,092

## 貸借対照表 【2018年3月31日現在】 (単位:千円)

		2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度			
資産の部	1. 流動資産	現金預金 未収金 前払費用 その他流動資産 合計	495 3,468 632 0 4,596	8,418 347 585 0 9,351	6,209 1,447 580 0 8,236	11,726 2,216 453 25 14,421	6,354 6,273 576 0 13,203		
	2. 固定資産	基本財産 特定資産 その他固定資産 合計	3,000 296,348 320 299,668	3,000 287,260 320 290,580	3,000 326,032 320 329,352	3,000 256,187 320 259,507	3,000 1,547 0 4,547		
	資産合計		304,264	299,932	337,589	273,928	17,751		
	負債の部	1. 流動負債	短期借入金 未払金 未払費用 前受収益 前受会費 預り金 合計	2,300 0 5,148 0 0 837 8,285	0 0 3,823 1,028 10 385 5,247	0 0 900 66 30 459 1,455	0 835 0 0 0 230 1,065	0 3,184 0 0 200 275 3,659	
		負債合計		8,285	5,247	1,455	1,065	3,659	
		正味財産の部	1. 指定正味財産	基本金 指定寄附金 指定助成金 指定正味財産合計 (うち基本財産への充当額)	3,000 292,772 0 292,772 (3,000)	3,000 284,245 0 287,245 (3,000)	3,000 324,838 1,000 328,838 (3,000)	3,000 255,507 1,000 259,507 (3,000)	3,000 1,547 0 4,547 (3,000)
			2. 一般正味財産	一般正味財産 正味財産合計	206 295,978	7,439 294,685	7,296 336,134	13,356 272,863	9,545 14,092
			負債及び正味財産合計		304,264	299,932	337,589	273,928	17,751

# パブリックリソース財団の歩み

NPO リーダーの 育成	NPOマネジメント	調査研究	評価	年 主な出来事	社会的投資	寄付の推進	CSRの推進
				2000 1月 NPO法人パブリックリソースセンターとしてスタート			
		● パブリックリソースに関する基礎調査 ● ウイメンズファンドフォーラム		2001	● SRI(企業の社会的責任投資)のための企業の社会性調査を開始		
		● 「パブリックリソース・ハンドブック」出版		2002		● オンライン寄付 GambaNPO.netの運営開始	
	● NPO組織診断ツールの開発	● NPOの組織基盤強化支援に関する調査研究		2003	● 社債運用に関するSRIコンサルテーション		
	● 組織診断・コンサルティングの開始	● キャパシティビルディングフォーラム		2004			
	● NPOマネジメント支援コンサルタント養成講座の開始			2005			● CSRインターンシップ・プログラムの運営(立教大学)
	● NPOマネジメント基礎講座開始			2006			● 世界11ヵ国における日本企業のCSR活動の調査
		● 米国における寄付関連金融商品の動向に関する調査研究	● 企業の社会貢献活動の成果評価を開始	2007			● 企業の社会貢献プログラムの支援を開始
	● 通信講座を開始			2008 12月 公益法人改革		● Give One(ギブワン)に名称を変えてリニューアル	
● 社会起業大学との協働		● 「NPO実践マネジメント入門」出版		2009			● 社員募金プログラム支援を開始
● 「新しい公共」支援事業における社会起業家育成事業		● サステナブル・インベストメント・フォーラム	● 企業の助成プログラムの事業評価を開始	2010			● 寄付つき商品の開発支援の開始
● 東日本大震災被災地における社会起業家育成事業	● (約130名が受講)	● SROIに関する調査研究		2011 3月 東日本大震災福島原発事故6月 新寄付規制公布		● (オンライン寄付)累計1億円突破	
	● (組織診断30団体突破)	● SROIセミナーの開催(東京・大阪)	● 東北の被災地支援のSROI評価	2012			
	● 中間支援4団体に組織診断ノウハウを移転			2013 1月 公益財団法人化 パブリックリソース財団設立		● 「アート&ヘルス基金」設置	● 企業基金「未来につなぐふるさと基金」を設置
			● 組織基盤強化事業のSROI評価	2014		● 財団初の個人基金「井上圭子様メモリアル基金」設置 ● 「ふくしま未来基金」設置 ● 遺贈支援の開始	
			● 中小企業経営革新のSROI評価	2015		● 女性が支える女性のための「あい基金」設置	
	● (組織診断40団体突破)			2016		● (オンライン寄付)累計2億円突破 ● 「純 子ども基金」設置 ● 「いそう寄付の窓口」加盟団体になる	● 全国初 信用組合による社会貢献プラットフォーム「魚沼の未来基金」設置
● 福島の未来を切り拓く人材育成「ふくしま若塾」	● 福島でコンサルタント養成講座を開催	● 「寄付適格性」評価手法の開発					

## ごあいさつ

今、世界では孤立・分断と連帯・融和の二つの潮流がせめぎ合っています。

孤立感は、他社から奪われることへの恐怖や怒りに根ざしています。

一方で、人間という生物の本質を探った『NHKスペシャル ヒューマン なぜ人間になれたのか』(2012年)では、

「奪い合うのではなく、分かち合うことで人間になれた」としています。

寄付は、私たちの生命の根幹に在る人間性に結びついているのだと思います。

ここ数年、個人による「オリジナル基金」の創設が増えてきています。

ご自身の生きてきた軌跡や希望、故人の生きて証とその人の信念や願いを、他者と分かち合うような基金です。

寄付者からのご相談をうかがっていて、分かち合うことで人間は生きているのだということ、

さらには、人は亡くなっても人の心や社会の中で生き続けるのだということを実感しています。

新たに、ひとり親家庭や児童養護施設の子どもたちへの奨学金制度に取り組んでいます。

子どもたちのお話からは、一人ひとりが将来に夢を持って懸命に生きていることが伝わってきます。

『この子たちから夢を奪ってはいけない』という強い思いに駆られるのです。

私どもは、「ドナーファースト」から「ヒューマンファースト」へと進化させ、寄付者とパートナーであるNPOや

社会的企業とともに、人間性の本質に根ざしたフィランソロピー社会の構築を目指していきます。

弊財団の2016年度の実績を取りまとめましたので、ご高覧ください。

平素のご支援、ご協力に感謝するとともに、引き続きのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2017年夏

公益財団法人 パブリックリソース財団

代表理事 久住 剛(理事長)

代表理事 岸本幸子(専務理事)

## 平成 30 年度「ラウンドテーブル」について

1. 平成 30 年度「ラウンドテーブル」テーマ  
公益活動の増進と寄附文化の醸成

## 2. 趣旨及び視点

継続的に事業を行っていくために寄附募集を検討する公益法人が増えてきている。しかし、これらの法人からは募集するノウハウがなく、取り組むべきことが分からないといった声が多く聞かれる。

寄附の募集に当たっては、法人の活動に関する周知・広報が重要だが、併せて各法人において、受け入れた寄附金に関する説明責任を果たし、寄附金の使途の透明性を確保していくことも重要な点であると思われる。

上記を踏まえ、平成 30 年度「ラウンドテーブル」では、各公益法人における寄附に係る取組や工夫などを伺い、取組例を広く他の法人に共有するとともに、公益法人における寄附の意義等に関して意見交換を行う。

## &lt;視点例&gt;

- (1) 各法人での寄附募集の取組・工夫
  - ・ 寄附募集を開始した経緯
  - ・ 寄附に係る人材の確保 など
- (2) 寄附集めにおいて配慮を要する点
  - ・ 法人の活動の訴求力
- (3) 説明責任・使途の透明性の確保
  - ・ 寄附者に対する説明責任
  - ・ 広く国民全体に対する説明責任 など
- (4) 今後の寄附文化醸成のための方策

## 「法人との対話」について

平成 28 年 5 月 26 日  
平成 30 年 4 月 13 日改訂  
内閣府公益認定等委員会

現行の公益法人制度は平成 20 年 12 月から実施されました。公益法人の数は、平成 30 年 3 月現在で 9,500 法人を超えるまでになっています。

公益法人は、公益の増進という高い志を礎に、法人の設立理念に則って自立し、自律性を十分に発揮して運営していくことが求められます。このため、公益法人の関係者は、法令の遵守は無論のこと、誇りと責任意識をもって、公益法人の運営に携わることが期待されています。

また、公益認定法に基づく公益認定の審査と公益法人の監督を行う本委員会が、これまでの活動の中で積み重ねてきた知見と経験を踏まえ、今、改めて重要と考えていることは、公益の増進のためには、これを受ける側である国民・市民の立場や思いに常に配慮することが大切である、ということです。公益認定法の運用に携わる本委員会と、公益の増進に直接的に寄与する公益法人の関係者は、共にこのことを意識し、各々の活動にあたっていかなければなりません。

このような考えから、本委員会においては、審査、監督に並ぶ第三の重要な柱として「法人との対話」を行い、国民・市民のための公益の増進の在り方を、公益法人をはじめとする法人の関係者と共に考え続け、その成果を広く発信していきたいと考えています。

具体的には、公益法人等の関係者と対面し、相互に情報発信や意見交換を行い意思疎通を図る活動を複数行っていく予定です。もとより、対話にはお互いの努力が必要であり、公益法人等の関係者におかれては、適正かつ活発な公益法人等の運営や公益活動の展開のため、積極的な参加や提案をお願いします。

本活動の成果は、内閣府、47 都道府県の行政庁及びそれぞれの合議制機関と共有するとともに、公益法人等の関係者や国民・市民に対して広く発信します。

各都道府県においても、合議制機関と公益法人等の関係者が創意工夫ある対話を行い、公益法人等の運営や公益活動の充実に共に寄与されることを期待します。

## 平成30年度「法人との対話」活動予定

内閣府公益認定等委員会

### **1. ラウンドテーブル** ～公益法人等の関係者との意見交換～

公益の増進に向け、国民・市民の立場や思いに配慮することが大切であるという認識の下、互いに意識の共有に努めるため、公益認定等委員会の委員と公益法人等の関係者が率直な意見交換を行う。

【予定】 1回程度

### **2. 法人訪問** ～公益法人の活動状況の視察・意見交換～

公益法人の活動実態についての理解を深めるため、公益認定等委員会の委員が公益法人を訪問し、当該法人の活動状況の視察や意見交換を行う。

【予定】 内閣府認定法人の訪問 2回程度

都道府県認定法人の訪問 6回程度

### **3. セミナー・相談会** ～公益法人の運営に関するセミナー・相談会等～

#### (1) テーマ別セミナー

公益法人の運営全般の中から公益法人の関心が高いテーマを取り上げたセミナーを開催する。

平成30年度は、従来の東京都内での開催に加えて試行的に近畿地区でも開催する。

【予定】 3回程度

#### (2) 相談会・基本セミナー

公益認定申請や公益法人の運営に関する公益法人等からの相談に対し、弁護士、公認会計士等が個別に対応する相談会を開催する。また、会場では、公益法人制度の基本的な事項に関するセミナーも同時に開催する。

【予定】 5月～2月頃（東京8回、地方5回）

\* 日時・場所・テーマ等は、「公益認定等委員会だより」（公益認定等委員会発行）や公益法人 Information（国・都道府県公式公益法人行政総合サイト）等で逐次公表。

## 「法人との対話」これまでの実績

内閣府公益認定等委員会

開催年月日	テーマ/訪問先/開催地
<b>1. ラウンドテーブル</b>	
26年7月4日	「寄附文化の醸成その他今後の公益活動の増進に向けた課題と取組」
28年2月3日	「公益の増進を図る法人形態の選択と組織の経営管理力の充実」
28年10月28日	「公益法人を目指す一般法人や公益法人の支援の在り方について～公益認定申請相談や法人運営相談の実情を踏まえて～」
30年2月20日	「企業財団による活動の現状と今後の展開」
<b>2. 法人訪問</b>	
○内閣府認定法人の訪問	
27年1月27日	(公財)世界自然保護基金ジャパン
27年3月10日	(公財)日本フィルハーモニー交響楽団
27年4月10日	(公財)全日本柔道連盟
27年9月1日	(公社)青年海外協力協会
28年2月16日	(公財)がんの子どもを守る会
28年6月10日	(公財)微生物科学研究会
28年9月26日	(公社)静岡県公共嘱託登記土地家屋調査士協会
29年2月6日	(公財)二十一世紀職業財団
29年7月28日	(公財)三菱商事復興支援財団
29年11月2日	(公財)中谷医工計測技術振興財団
30年2月5日	(公財)日本財団
○都道府県認定法人の訪問	
26年度 (6法人)	
26年10月23日	(公財)みんなでつくる財団おかやま
26年10月28日	(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
26年10月28日	(公財)肥後の水とみどりの愛護基金
26年10月31日	(公社)あおもり農林業支援センター
26年11月6日	(公財)金沢文化振興財団
26年11月19日	(公社)徳島市観光協会
27年度 (6法人)	
27年9月4日	(公財)北海道体育協会
27年10月29日	(公財)岡田文化財団
27年10月29日	(公社)鹿児島県観光連盟
27年11月12日	(公財)京都伝統伎芸振興財団
27年11月25日	(公財)高知県文化財団
27年12月1日	(公財)ひろしま国際センター
28年度 (4法人)	
28年9月15日	(公財)富山市ファミリーパーク公社
28年10月26日	(公社)宮崎県林業労働機械化センター
28年11月15日	(公財)愛媛県文化振興財団
28年11月25日	(公財)大阪日本民芸館
29年度 (5法人)	
29年9月7日	(公財)釜石・大槌地域産業育成センター
29年9月14日	(公社)岐阜県交響楽団
29年10月6日	(公社)紀の国被害者支援センター
29年11月1日	(公財)沖縄県体育協会
29年11月14日	(公財)山口きらめき財団
<b>3. セミナー・相談会</b>	
※法人数は延べ数	
(1)テーマ別セミナー	
26年度 (計10回開催、1,173法人参加)	
26年4月24日	公益認定申請、公益認定基準の基本事項
26年6月4日	定期提出書類作成上の留意事項
26年6月26日	寄附集め入門

26年7月17日	公益法人の役員等の役割と責任
26年9月10日	法人の財産管理
26年10月15日	寄附集め入門
26年11月20日	公益法人の役員等の役割と責任
27年1月29日・30日	定期提出書類作成上の留意事項
27年2月25日	公益法人の監査
27年3月23日・30日	定期提出書類作成上の留意事項
27年度（計3回開催、720法人参加）	
27年7月21日	公益法人の役員等の役割と責任
27年9月7日	マイナンバーガイドライン(事業者編)の概要
28年1月20日	公益法人の会計に関する研究会報告書
28年度（計4回開催、373法人参加）	
28年5月30日	①平成27年度 公益法人の会計に関する諸課題の検討結果について ②税額控除証明申請に係るPST要件の緩和
28年7月7日	公益法人の会計基準に関する実務指針
28年8月31日	公益法人の会計基準に関する実務指針
28年11月9日	公益法人の会計基準に関する実務指針、収支相償
29年度（計3回開催、363法人参加）	
29年7月20日	①「会計士協会実務指針第38号」の改正について ②「寄附税制の基本の「き」」
29年12月7日	①「寄附税制の基本の「き」」 ②「寄附受入れへの第一歩」
30年3月7日	①「定期提出書類作成上の留意事項-総論-」 ②「財務基準関係」
(2)相談会・基本セミナー ※[]内は基本セミナーの内容	
26年度（計15回開催、個別相談-449法人参加、基本セミナー-573法人参加）	
26年5月20日	東京(第1回) [公益認定、法人運営]
26年6月16日	名古屋 [公益認定、法人運営]
26年7月15日	東京(第2回) [公益認定、法人運営]
26年8月21日	仙台 [公益認定、法人運営]
26年9月18日	東京(第3回) [公益認定、法人運営]
26年10月2日	広島 [公益認定、法人運営]
26年10月22日	東京(第4回) [公益認定、法人運営]
26年11月12日	東京(第5回) [公益認定、法人運営]
26年12月5日	福岡 [公益認定、法人運営]
26年12月9日	東京(第6回) [公益認定、法人運営]
27年1月19日	東京(第7回) [公益認定、法人運営]
27年1月26日	大阪 [公益認定、法人運営]
27年2月13日	東京(第8回) [公益認定、法人運営]
27年2月26日	東京(第9回) [公益認定、法人運営]
27年3月17日	東京(第10回) [公益認定、法人運営]
27年度（計18回開催、個別相談-405法人参加、基本セミナー-1,099法人参加）	
27年5月29日	東京(第1回) [公益認定、業務運営、財務基準]
27年6月22日	名古屋 [公益認定、業務運営、財務基準]
27年7月15日	京都 [公益認定、業務運営、財務基準]
27年7月23日	東京(第2回) [公益認定、業務運営、財務基準]
27年7月29日	仙台 [公益認定、業務運営]
27年8月26日	東京(第3回) [公益認定、業務運営、財務基準]
27年9月24日	東京(第4回) [公益認定、業務運営、財務基準]
27年10月1日	金沢 [公益認定、業務運営、財務基準]
27年10月14日	東京(第5回) [公益認定、業務運営、財務基準]
27年10月22日	広島 [公益認定、業務運営、財務基準]
27年11月12日	東京(第6回) [公益認定、業務運営、財務基準]
27年12月3日	東京(第7回) [公益認定、業務運営、財務基準]
28年1月18日	福岡 [公益認定、業務運営、財務基準]



28年1月25日	東京(第8回)	[公益認定、業務運営、財務基準]
28年2月17日	東京(第9回)	[公益認定、業務運営、機関運営、財務基準]
28年2月29日	松山	[公益認定、業務運営、機関運営、財務基準]
28年3月7日	大阪	[公益認定、業務運営、機関運営、財務基準]
28年3月16日	東京(第10回)	[公益認定、業務運営、機関運営、財務基準]
28年度(計18回開催、個別相談-397法人参加、基本セミナー-1,255法人参加)		
28年7月29日	東京(第1回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年8月26日	仙台	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年9月1日	東京(第2回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年9月28日	東京(第3回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年10月7日	大阪	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年10月24日	金沢	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年10月31日	東京(第4回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年11月7日	広島	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年11月21日	東京(第5回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年12月13日	名古屋	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
28年12月19日	東京(第6回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年1月19日	東京(第7回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年1月25日	松山	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年2月3日	東京(第8回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年2月16日	福岡	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年2月23日	東京(第9回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年3月6日	京都	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年3月16日	東京(第10回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年度(計16回開催、個別相談-437法人参加、基本セミナー-1,319法人参加)		
29年5月30日	東京(第1回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年6月26日	東京(第2回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年6月29日	大阪	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年7月24日	東京(第3回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年8月23日	東京(第4回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年9月20日	東京(第5回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年9月28日	仙台	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年10月23日	東京(第6回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年10月25日	福岡	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年11月7日	東京(第7回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年11月28日	広島	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年12月6日	東京(第8回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
29年12月12日	名古屋	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
30年1月23日	東京(第9回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
30年2月19日	京都	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]
30年3月2日	東京(第10回)	[公益認定、機関運営、財務基準、業務運営]